

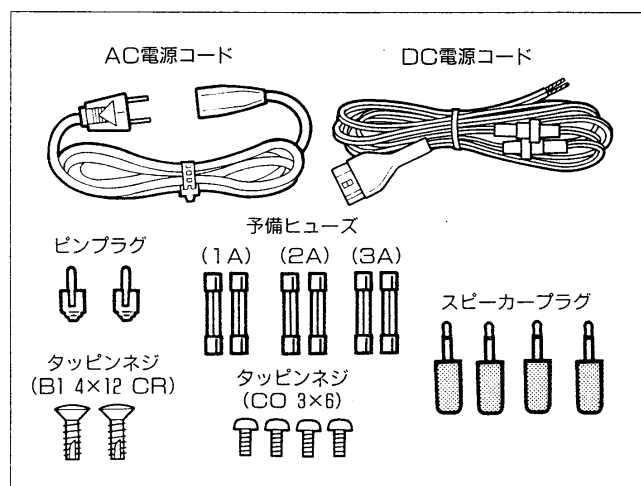
はじめに

このたびはIC-R7100をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、アイコム通信技術の粋を結集して完成した通信型コミュニケーション・レシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくと共に、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

付属品

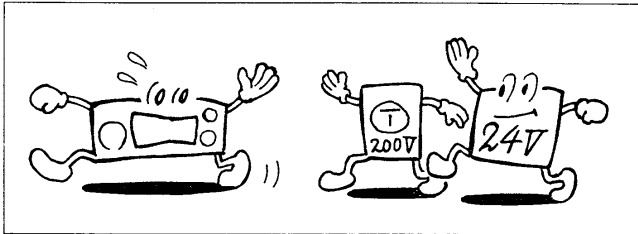


目次

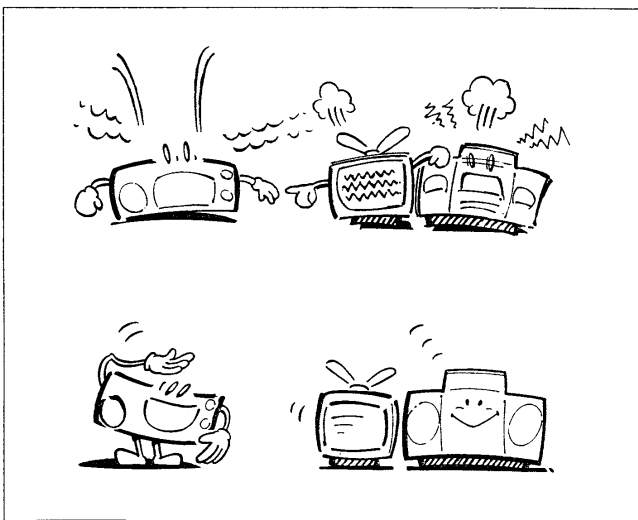
1. ご使用の前に	1	6-7 オートメモリーライトスキャン	
1-1 使用上のご注意	1	について	32
1-2 設置場所について	1	6-8 WS(ウインドウ)スキャンについて	33
2. 各部の名称と機能	2	6-9 ウインドウ・プログラムスキャン	
2-1 前面パネル	2	について	34
2-2 ディスプレイ	6	6-10 ウインドウ・メモリスキャン	
2-3 後面パネル	7	について	35
3. 設置と接続	8	6-11 ウインドウ・モードスキャンについて	36
3-1 前面・後面パネルの接続	8	6-12 ウインドウ・オートメモリーライト	
3-2 設置について	9	スキャンについて	37
3-3 電源の接続	9	6-13 デュアルスキャンについて	38
3-4 アースの接続	9	7. 時計およびタイマー操作	40
3-5 アンテナの接続	9	7-1 時計モードについて	40
3-6 テープレコーダーの接続	10	7-2 時刻のセット方法	41
3-7 REMOTEジャックについて	10	7-3 タイマー時刻のセット方法	42
4. 運用方法	12	7-4 タイマー動作	44
4-1 基本操作	12	8. 調整と保守	45
4-2 周波数の設定	13	8-1 調整についてのご注意	45
4-3 受信のしかた	15	8-2 保守について	45
4-4 諸機能の運用	17	9. 内部について	47
5. メモリー操作	18	■REGユニット	47
5-1 メモリーの運用	18	■MAINユニット	48
5-2 メモリーの呼び出しかた	19	■PLLユニット	48
5-3 メモリーへの書き込みかた	21	10. オプションユニットの取り付け	49
6. スキャン操作	23	10-1 分解手順	49
6-1 スキャンの運用	23	10-2 UT-36ユニットの取り付け	50
6-2 スキャンを運用する前に	23	10-3 MB-23の取り付け	50
6-3 スキャンセットモードについて	25	11. トラブルシューティング	51
6-4 プログラムスキャンについて	26	12. 定 格	52
6-5 メモリスキャンについて	29	13. オプションについて	53
6-6 モードスキャンについて	31		

1-1 使用上のご注意

- 本機はAC100V用ですから、クーラーなどで使用するAC200Vコンセントには、絶対に接続しないでください。また、DCで使用するときは、DC13.8Vの電源に接続してください。



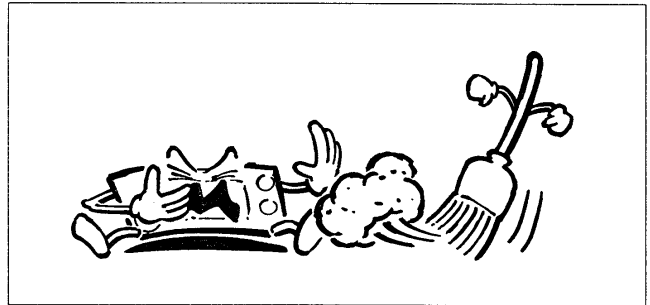
- 本機をモバイルで運用される場合は、エンジンキーで電源が切れるアクセサリ回路から電源を取ってください。
- 本機のカバーを外し、オプションユニットなどを取り付けるときは、必ずACまたはDC電源コードを抜いて作業を行ってください。
- チューナーやテレビなどの他の機器に妨害を与えるとき、または、ワープロやパソコンなどから影響を受けるときは、できるだけ距離をおいて設置してください。



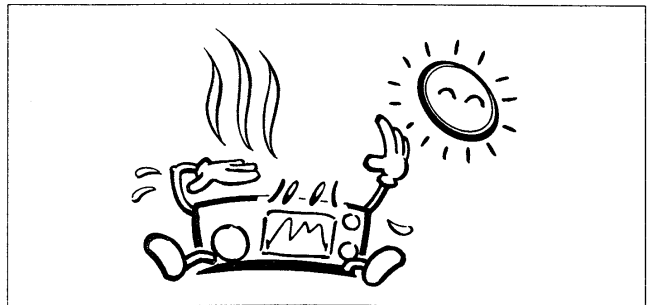
- 電波法第59条で「特定の相手に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」と通信の秘密に関して定められています。

1-2 設置場所について

- 極端に高温になる所、湿度の多い所、ホコリの多い所などへの設置はさけてください。

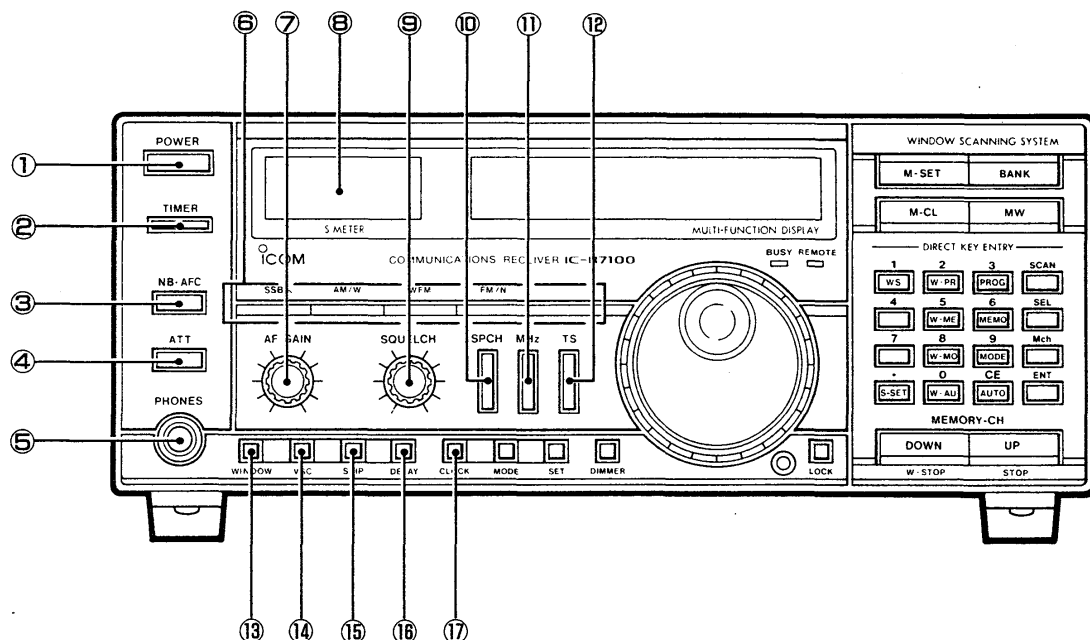


- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所への設置はさけてください。



- 本機の上に外部電源装置などを乗せて運用しますと、ハム混入の恐れがありますのでご注意ください。
- 車載でご使用の場合は、特に安全運転のさまたげにならない場所をお選びください。
なお、車に設置される場合は、オプションのモバイルブラケット(IC-MB5)をご利用ください。

2-1 前面パネル



①POWER (電源) スイッチ

本機の電源をON/OFFするスイッチです。
スイッチを押し込むと電源がONとなり、再度押すとOFFになります。

②TIMER (タイマー) スイッチ

タイマー機能をON/OFFするスイッチです。
スイッチを押し込むとタイマー機能がONとなり、再度押すとOFFになります。
タイマー機能については (P42) をご覧ください。

③NB (ノイズブランカー)・AFC (自動周波数調整) スイッチ

NB (ノイズブランカー) とAFC (自動周波数調整) をON/OFFするスイッチです。
NBとAFCは電波型式により切り換わり、AM、AMW、USB、LSBモードではノイズブランカー機能が動作します。
FM、FMN、WFMモードでは自動周波数調整機能が動作します。
それぞれの状態はディスプレイに“NB”または“AFC”が点灯して表示します。

④ATT (アッテネーター) スイッチ

約20dBのアッテネーターをON/OFFするスイッチです。
スイッチを押すと、約20dBのアッテネーターが動作し、強力な受信信号によるひずみをなくします。
通常はOFFにしておきます。

⑤PHONES (ヘッドホン) ジャック

ヘッドホンを接続するジャックです。
ヘッドホンのインピーダンスは4~16Ωです。
ステレオ用のヘッドホンも使用できます。
ヘッドホン使用時は、スピーカーからの音は出ません。

⑥MODE (電波型式) スイッチ

受信を行う電波型式を選択するスイッチです。
電波型式は、下記のような種類があります。
選択された電波型式は、ディスプレイに表示されます。

スイッチ	電波型式	備考
SSB	USBとLSBモードの指定	アマチュア無線などの受信
AM/W	AMとAMWモードの指定	アマチュア無線、エアバンドなどの受信
WFM	WFMモードの指定	FMラジオ放送、テレビ放送などの受信
FM/N	FMとFMNモードの指定	アマチュア無線、マリンバンドなどの受信

⑦AF GAIN (音量) ツマミ

受信音量を調整するつまみです。
つまみを時計方向に回すほど、スピーカーやヘッドホンからの受信音が大きくなります。
聞きやすい音量に調整してください。

⑨Sメーター

受信信号の信号強度を表示します。

⑩SQUELCH (スケルチ) ツマミ

受信中無信号の雑音 (ザー) を消すスケルチ調整ツマミです。

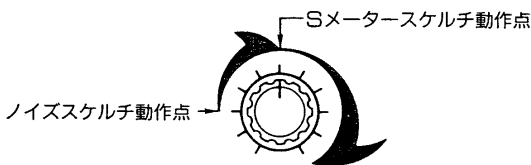
ツマミを時計方向に回して雑音が消え、BUSY LEDが消える位置にセットします。(ノイズスケルチ機能)

さらに回すと、Sメーターが振れだします。

Sメーターでセットした以上の受信信号だけが受信できるSメータースケルチ機能が動作します。

※ノイズスケルチは、AM、AMW、FM、FMNモードで動作します。

※Sメータースケルチは、すべての電波型式で動作します。



⑪SPCH (音声合成) スイッチ

音声合成で運用周波数を発声させるスイッチです。

オプションの音声合成ユニット (UT-36) 装着時、スイッチを押すごとに運用周波数を日本語または英語で発声します。

⑫MHz (メガヘルツ) スイッチ

メインダイヤルのチューニングステップを1MHzステップにするスイッチです。

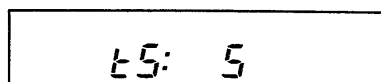
スイッチを押すと、MHz桁の上に"▼"マークが点灯し、すべての電波型式で1MHzステップとなります。

⑬TS (チューニングステップ) スイッチ

メインダイヤルのチューニングステップを切り換えるスイッチです。

スイッチを押すと、ディスプレイがチューニングステップ表示に切り換わり、100Hz、1kHz、5kHz、10kHz、12.5kHz、20kHz、25kHz、100kHzのチューニングステップをメインダイヤルで選択することができます。

5kHzステップ選択例

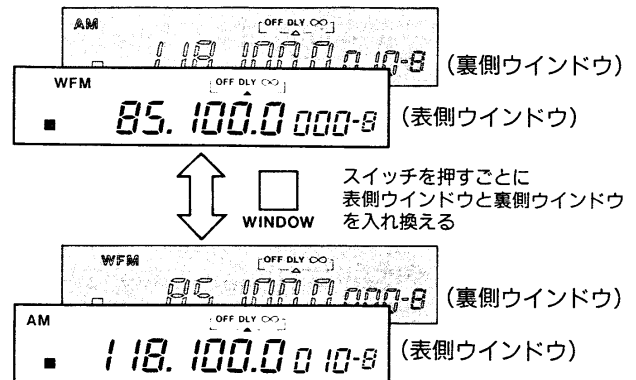


⑭WINDOW (ウインドウ) スイッチ

現在表示している内容と別枠のもう一つの内容(ウインドウ)を切り換えるスイッチです。

スイッチを押すと、別枠のもう一つの内容がディスプレイに表示されます。

詳しくは(P33)をご覧ください。



⑮VSC (ボイスキャンコントロール) スイッチ

ボイスキャンコントロール機能をON/OFFするスイッチです。

スイッチを押すと、ディスプレイに"VSC"が点灯し、ボイスキャンコントロール機能がONします。ボイスキャンコントロールは、スキャン動作中に信号を受信して、その信号に音声信号が含まれているかどうかを識別します。

信号に音声信号が含まれていればスキャン動作は停止し、含まれていなければ継続して動作します。

⑯SKIP (スキップ) スイッチ

スキャン時のスキップ機能をON/OFFするスイッチです。

スイッチを押すと、ディスプレイに"SKIP"が点灯し、メモリスキャン時、SKIPが指定されたメモリーチャンネルはスキップされます。

プログラムスキャン時は、SKIPが指定された周波数のみがスキップされます。

⑰DELAY (ディレイタイム) スイッチ

スキャン動作時、信号を受信してスキャン停止したときのディレイタイム(遅延時間)を設定するスイッチです。スイッチを押すごとに、ディスプレイのDELAY表示"OFF" "DLY" "∞"の下に"▲"マークが点灯して表示します。

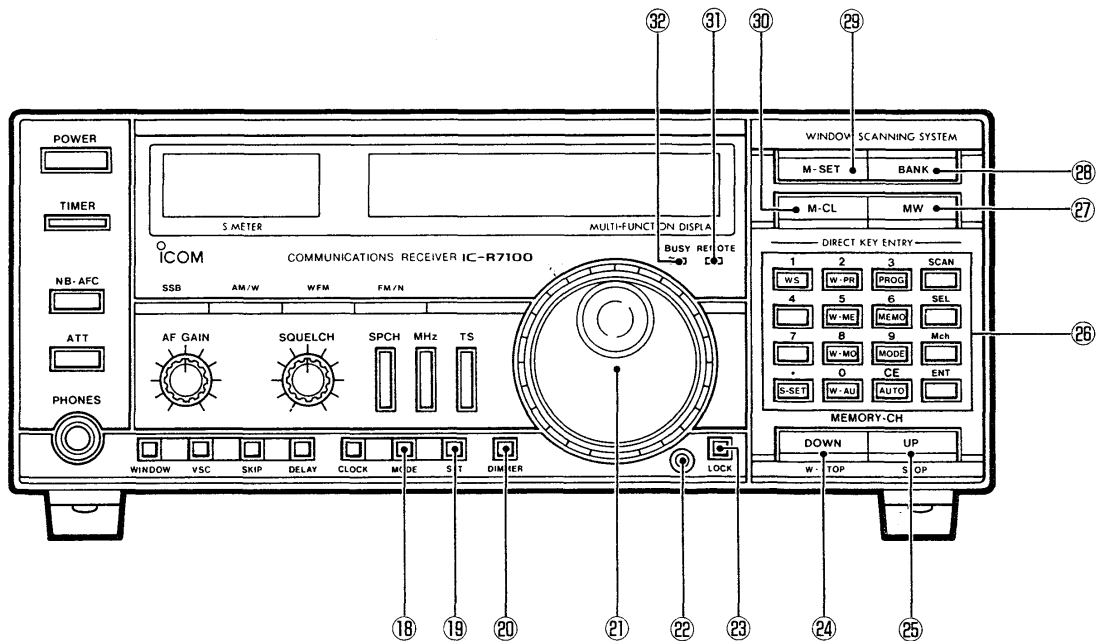
詳しくは(P24)をご覧ください。

⑱CLOCK (クロック) スイッチ

時計機能をON/OFFするスイッチです。

スイッチを押すごとに、周波数表示と時間表示に切り換わります。

2 各部の名称と機能



⑱MODE (時計モード) スイッチ

時計表示選択時に時計モードを切り換えるスイッチです。スイッチを押すことに、A~EグループのONタイマー表示→OFFタイマー表示→時間表示と切り換わります。詳しくは(P40)をご覧ください。

⑲SET (時計セット) スイッチ

各時刻のセットを行うスイッチです。MODEスイッチで時計モード選択時、スイッチを約2秒間押し続けると、選択されている時計モードが点滅します。点滅時、メインダイヤルまたはテンキーで各時刻のセットを行うことができます。

⑳DIMMER (ディマー) スイッチ

ディスプレイおよびSメーターのバックライトの明るさを切り換えるスイッチです。スイッチを押すと暗くなり、再度押すと明るくなります。

㉑メインダイヤル

運用周波数の設定、各時計モードの時刻設定を行うダイヤルです。ダイヤルを時計方向に回すとアップ、反時計方向に回すとダウン動作になります。

㉒ブレーキ調整ネジ

メインダイヤルのトルク(重さ)を調整するネジです。ブレーキ調整ネジを時計方向に回すと重くなり、反時計方向に回すと軽くなります。チューニングしやすい重さに合わせてご使用ください。

㉓LOCK (ロック) スイッチ

メインダイヤルの機能を電氣的に固定するスイッチです。スイッチを押すと、メインダイヤルの操作を行っても周波数は変化しません。再度押すと解除します。

㉔MEMORY-CH DOWN (ダウン) スイッチ

メモリーチャンネルをダウンさせるスイッチです。スイッチを押すことにメモリーチャンネルがダウンし、約0.5秒押し続けると連続動作となります。

㉕W-STOP (ウインドウ・スキャン ストップ) スイッチ

ウインドウ・スキャンをストップさせるスイッチです。スイッチを押すと、ウインドウ・スキャン、ウインドウ・プログラムスキャン、ウインドウ・メモリスキャン、ウインドウ・モードスキャン、ウインドウ・オートメモリーライトスキャンを解除します。

⑮MEMORY-CH UP (アップ) スイッチ

メモリーチャンネルをアップさせるスイッチです。
スイッチを押すごとにメモリーチャンネルがアップし、
約0.5秒押し続けると連続動作となります。

■STOP (スキャン ストップ) スイッチ

通常のスキャンをストップさせるスイッチです。
スイッチを押すと、プログラムスキャン、メモリスキャン、
モードスキャン、オートメモリーライトスキャンを解除します。

⑯キーボード

運用周波数、メモリーチャンネル、各種スキャン機能、
時刻などをダイレクトに設定するキーボードです。

■キーボードの各種機能概略

	単独で押したとき	SCANキーのあとに押したとき
1 WS	置数「1」を設定する。	ウインドウ・スキャンがスタートする。
2 W-PR	置数「2」を設定する。	ウインドウ・プログラムスキャンがスタートする。
3 PROG	置数「3」を設定する。	プログラムスキャンがスタートする。
4	置数「4」を設定する。	無効
5 W-ME	置数「5」を設定する。	ウインドウ・メモリスキャンがスタートする。
6 MEMO	置数「6」を設定する。	メモリスキャンがスタートする。
7	置数「7」を設定する。	無効
8 W-MO	置数「8」を設定する。	ウインドウ・モードスキャンがスタートする。
9 MODE	置数「9」を設定する。	モードスキャンがスタートする。
S-SET	MHz桁を指定する。	スキャンのセットモードとなる。
0 W-AU	置数「0」を設定する。	ウインドウ・オートメモリーライトスキャンがスタートする。
CE AUTO	置数をクリアする。	オートメモリーライトスキャンがスタートする。
SCAN	スキャン機能を設定する。	
SEL	メモリーチャンネルのセレクトNoを指定する。押しながらメインダイヤルを回すと、セレクトNoの切り換えができる。	
Mch	置数で設定したメモリーチャンネルを確認する。押しながらメインダイヤルを回すと、メモリーチャンネルの切り換えができる。	
ENT	置数で設定した周波数を確認する。	

⑰MW (メモリーライト) スイッチ

メモリーチャンネルへの書き込みを行うスイッチです。
スイッチをピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、
セットした内容が指定のメモリーチャンネルに書き込まれ、
記憶されます。

⑱BANK (メモリーバンク) スイッチ

メモリーチャンネルをバンク(グループ)ごとに切り換える
スイッチです。
スイッチをワンプッシュ操作することにより、メモリーチャ
ンネルが100チャンネルステップで切り換わります。
また、スイッチをピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押
すと、BANK機能をON/OFFすることができます。
詳しくは(=P18)をご覧ください。

⑲M-SET (メモリーセット) スイッチ

現在表示している内容を保持し、他のメモリーチャンネル
に転送させるスイッチです。
スイッチを押すと、メモリーチャンネルが点滅します。
点滅時、メインダイヤルでメモリーチャンネルをアップ/
ダウンさせることができます。

⑳M-CL (メモリークリア) スイッチ

不要になったメモリーチャンネルの内容を消去するスイ
ッチです。
スイッチをピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、
呼び出しているメモリーチャンネルに記憶している内容
を消去し、ブランク状態にします。

㉑REMOTE (リモート表示) LED

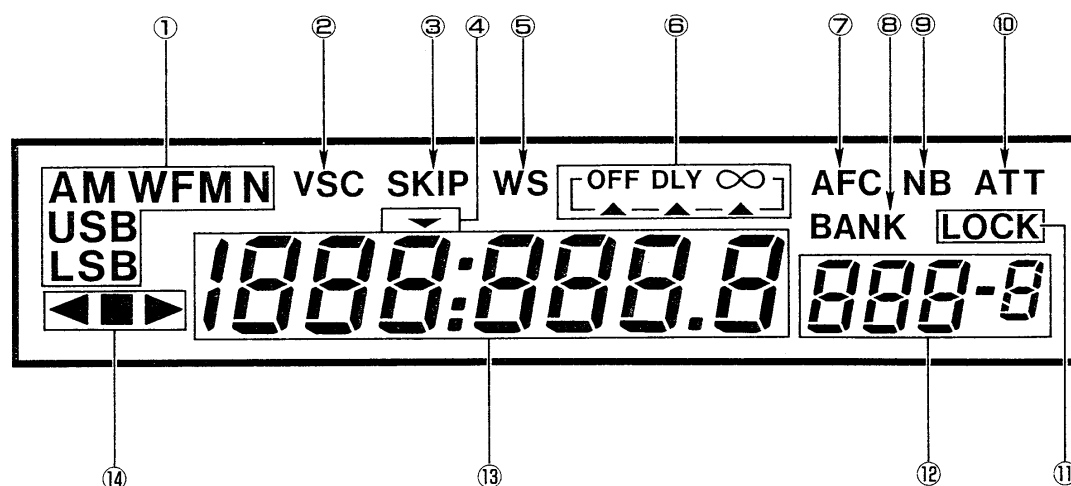
CI-VでAF GAINをコントロール中点灯します。
点灯中に本機のAF GAINツマミを操作すると消灯し、
CI-Vからのコントロールを解除します。
CI-Vについては(=P10)をご覧ください。

㉒BUSY (話中表示) LED

スケルチが開いている状態のとき、緑色に点灯します。
スケルチがセットされているときは、受信信号により点
灯します。

2 各部の名称と機能

2-2 ディスプレイ



①MODE (電波型式) 表示部

選択されている電波型式を表示します。

②VSC (ボイスキャンコントロール) 表示部

ボイスキャンコントロール機能が選択されていることを表示します。

③SKIP (スキップ) 表示部

スキップ機能が選択されていることを表示します。

④MHz (メガヘルツ) 表示部

メインダイヤルのチューニングステップが1MHzステップになっていることを表示します。

⑤WS (ウインドウ・スキャン) 表示部

各種ウインドウ・スキャンの動作中を表示します。

⑥DELAY (ディレイタイム) 表示部

スキャンストップの条件を表示します。

⑦AFC (自動周波数調整) 表示部

自動周波数調整機能が選択されていることを表示します。
(WFM、FM、FMNモードで動作)

⑧BANK (メモリーバンク) 表示部

メモリーバンク機能が選択されていることを表示します。

⑨NB (ノイズブランカー) 表示部

ノイズブランカー機能が選択されていることを表示します。
(USB、LSB、AM、AMWモードで動作)

⑩ATT (アッテネーター) 表示部

約20dBのアッテネーターが動作していることを表示します。

⑪LOCK (ロック) 表示部

メインダイヤルの機能が電氣的に固定されていることを表示します。

⑫MEMORY-CH/SELECT-No. 表示部

運用中のメモリーチャンネルとセレクト・ナンバーを表示します。

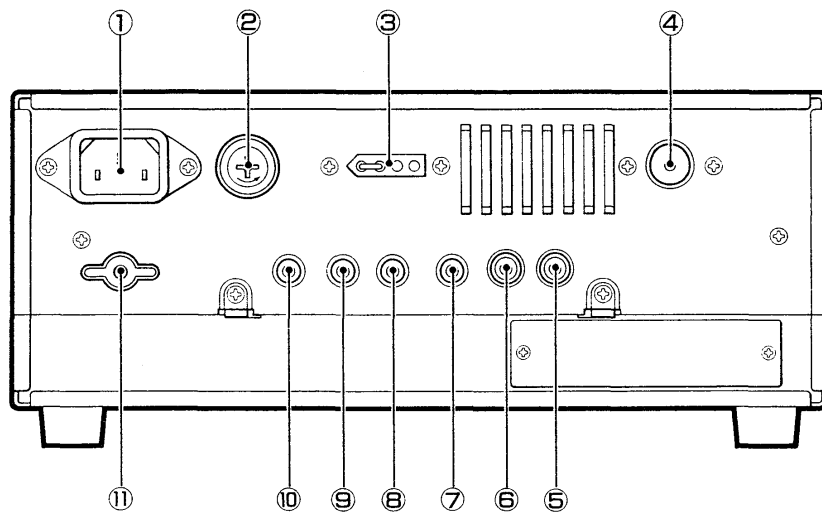
⑬周波数表示部

通常は運用周波数を表示し、時計モード時は時刻を表示します。

⑭センターメーター表示部

メインダイヤルでチューニング (同調) をとるときに、「■」マークが点灯するように同調をとります。
(WFM、FM、FMN、AM、AMWモードで動作)

2-3 後面パネル



①AC（交流）電源コンセント

付属のAC電源コードで家庭用AC100Vコンセントと接続します。

②FUSE（ヒューズ）ホルダー

AC電源用のヒューズを納めたホルダーです。
交換するときは、付属の予備ヒューズ(1A)をご使用ください。

③DC（直流）電源コンセント

本機をDC13.8Vで使用するときのコンセントです。
付属のDC電源コードで外部DC電源装置(13.8V)やバッテリー(12V)と接続します。
なお、AC100Vで使用のときは、ジャンパーコネクターは差し込んだ状態でご使用ください。

④ANT（アンテナ）端子

インピーダンス50Ωのアンテナを接続する端子です。
接続には、N型同軸コネクターをご使用ください。
なお、オプションで超広帯域(25~1300MHz)ディスコーンアンテナ(AH-7000)を用意していますのでご利用ください。

⑤AGC（自動利得調整）ジャック

HIインピーダンスのAGC出力が接続されています。
オプションのTV-R7100Jと接続します。

⑥IF OUT（IF出力）ジャック

10.7MHzのIF信号を出力するジャックです。
オプションのTV-R7100Jと接続します。
各種デモジュレーターおよびFMステレオ復調器などを自作したときに接続するジャックです。

注意

IF出力には、DC9V MAX 100mAの直流電圧が重畳されていますので、接続には十分注意してください。

⑦REMOTE（CI-Vリモートコントロール）ジャック

外部から制御するためのパーソナルコンピューターなどを接続するジャックです。

⑧REC REMOTE（レコーダーリモート）ジャック

本機のスケルチ回路の出力で内部リレーを駆動し、テープレコーダーのREMOTE端子を制御するジャックです。

⑨REC（録音）ジャック

本機の低周波出力ジャックです。
テープレコーダーの外部入力端子(AUX端子など)に接続します。
AF GAINツマミに関係なく一定レベルで出力されます。

⑩EXT SP（外部スピーカー）ジャック

外部スピーカーを接続するジャックです。

⑪GND（アース）端子

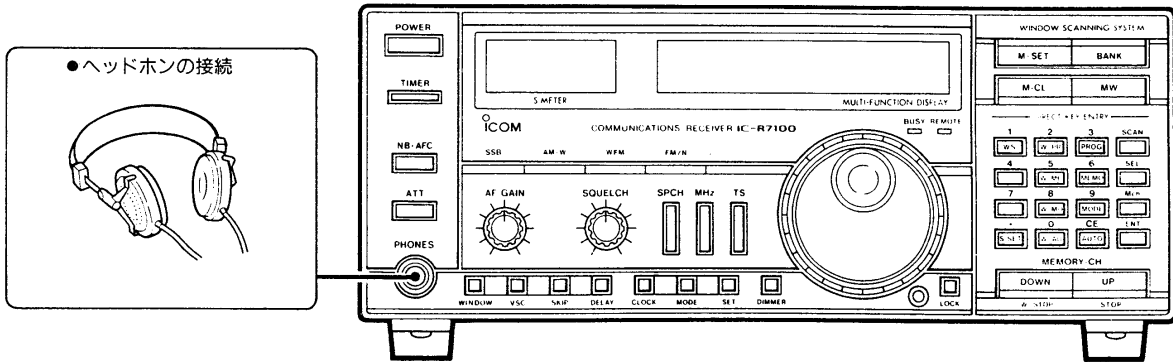
アース線を接続する端子です。
感電事故や他の機器からの妨害を防ぐため、必ずこの端子をアース線で接続してください。

3

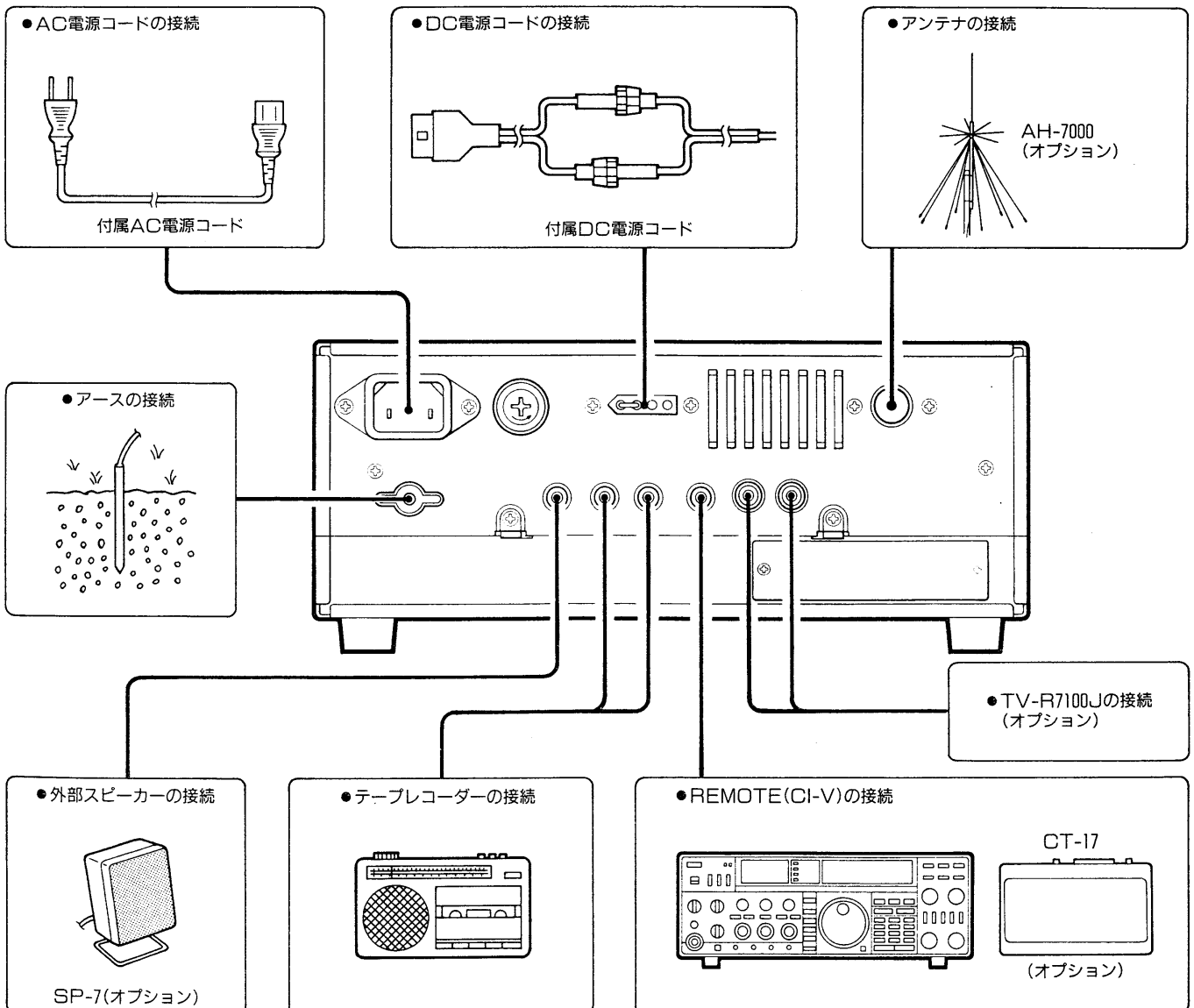
設置と接続

3-1 前面・後面パネルの接続

■前面パネル

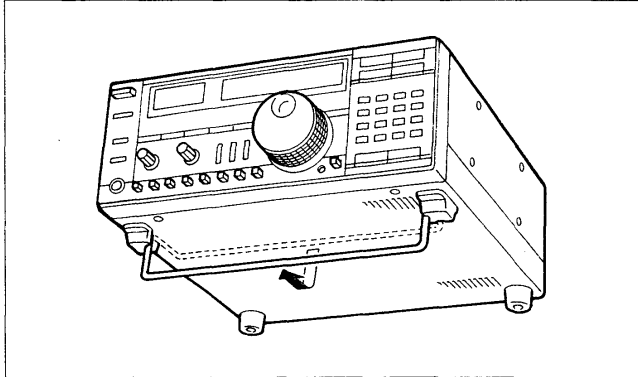


■後面パネル



3-2 設置について

机の上などで運用されるときは、本機下カバー側に付いているスタンドをご利用ください。

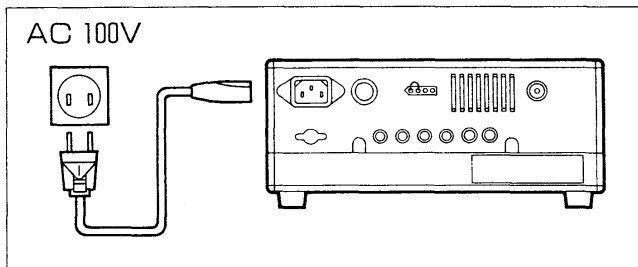


3-3 電源の接続

1. AC電源の接続

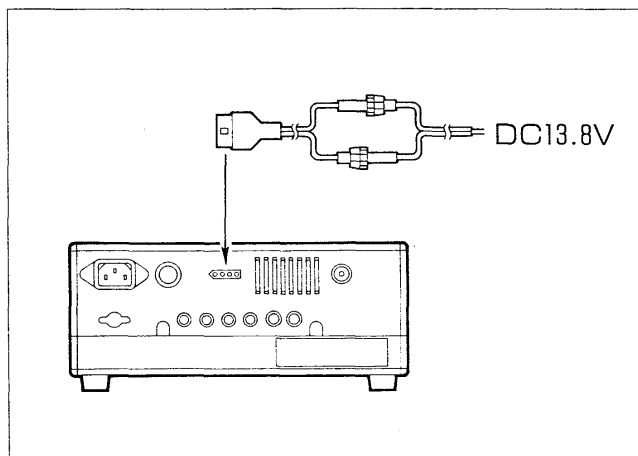
付属のAC電源コードで家庭用電源(AC100V)に接続します。

※本機をAC電源で運用するときは、DC(直流)電源コンセントにジャンパーコネクタを差し込んでおきます。



2. DC電源の接続

付属のDC電源コードで外部電源装置(DC13.8V)またはバッテリー(12V系)に接続します。

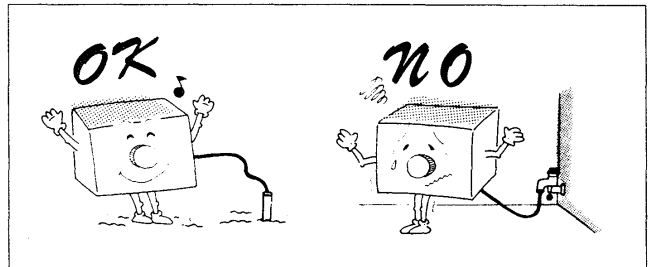


3-4 アースの接続

感電事故や他の機器からの妨害を未然に防ぐため、市販のアース棒や銅板などを地中に埋め、後面パネルのGND端子からできるだけ太い線で、最短距離になるように接続してください。

注意

ガス管や配電管などは危険ですから、絶対にアースとして使用しないでください。



3-5 アンテナの接続

アンテナは本機の受信性能を十分に発揮させるためにも重要な部分です。

使用するアンテナは、受信を行う周波数帯域や受信目的に合わせてお選びください。

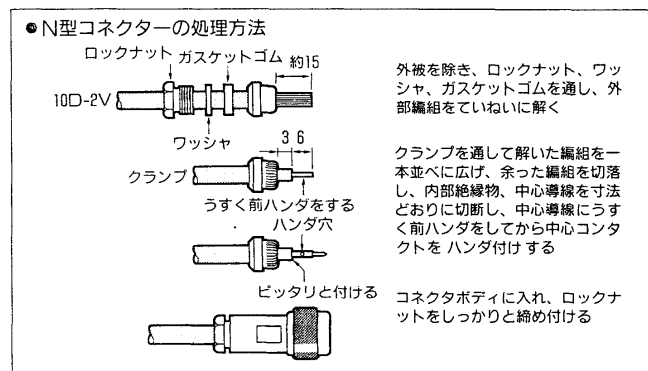
当社では、オプションとして超広帯域ディスコーンアンテナ(AH-7000)を用意しています。

本機の受信帯域に合わせて25~1300MHz帯を1本のアンテナでフルカバーします。

■N型同軸コネクタの接続

アンテナに使用する同軸ケーブルとN型同軸コネクタは、次図のように取り付けてください。

同軸ケーブルとN型コネクタは、インピーダンス50Ωのものを使用してください。



3 設置と接続

3-6 テープレコーダーの接続

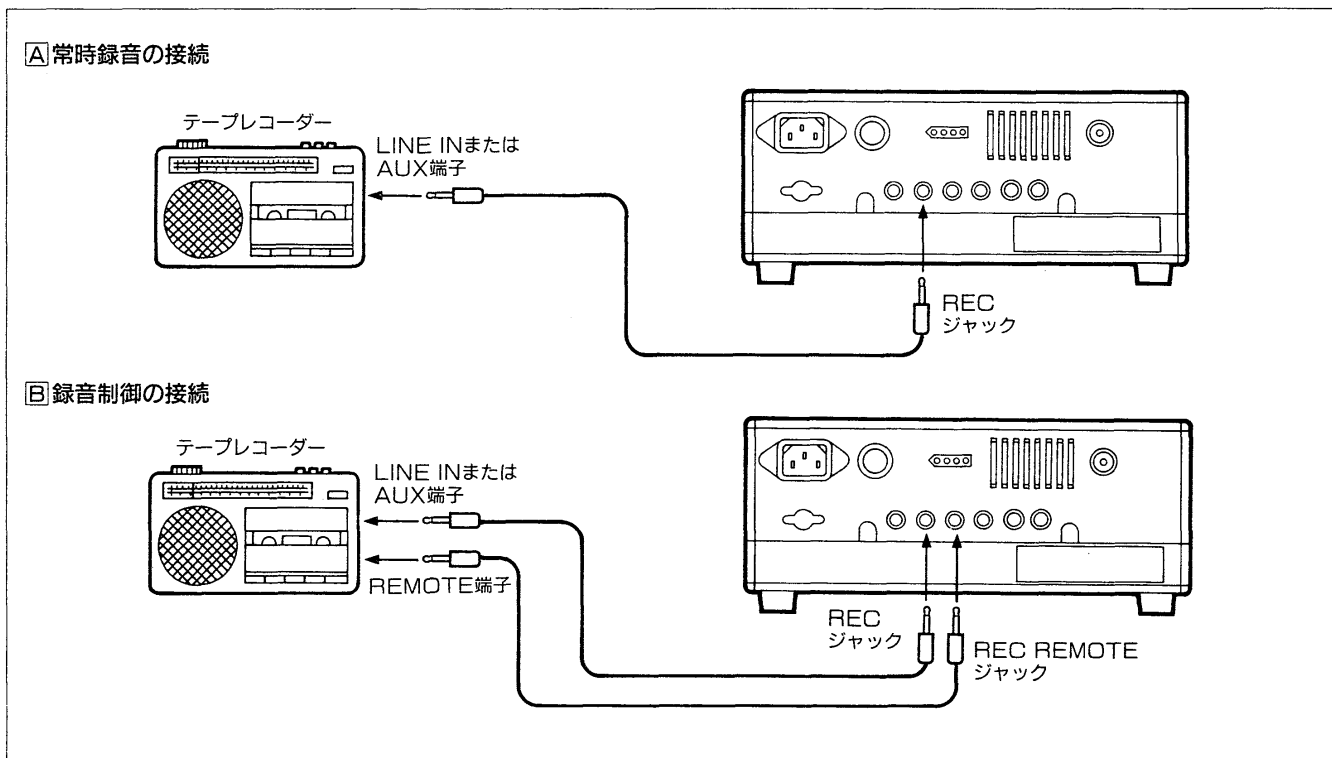
本機後面パネルのREC REMOTEジャックとRECジャックをテープレコーダーに接続することにより、受信内容を簡単に録音することができます。

1. 常時録音する場合

常時録音する場合は、下図[A]のように接続します。録音レベルは、AF GAINツマミに関係なく、一定レベルで録音されます。

2. 録音制御する場合

録音制御する場合は、下図[B]のように接続します。後面パネルのREC REMOTEジャックの制御信号で、テープレコーダーを制御（信号を受信してスケルチが開いたときだけ録音）し、AF GAINツマミに関係なく、一定レベルで録音されます。また、VSC機能を利用して音声信号だけを録音することができます。さらに、REC SPEECH機能を利用して、スキャンストップ時の周波数を音声にて録音することができます。（オプションのUT-36装着時）



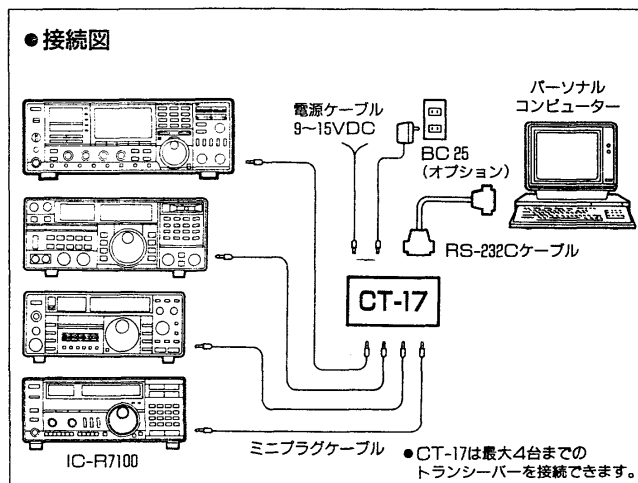
3-7 REMOTE (CI-Vリモート) ジャックについて

本機にパーソナルコンピューターを接続することにより、周波数、電波型式などを外部からコントロールすることができます。

コントロールは、ICOM Communication Interface V (CI-V) によるシリアル方式で行われます。

オプションのCI-Vレベルコンバーター(CT-17)を使用することにより、RS-232Cタイプのシリアルポートを持つパーソナルコンピューターが接続でき、外部コントロールを楽しむことができます。

※パーソナルコンピューターで、アイコムの特ランシーバーを制御する方法は、CT-17の取扱説明書およびCI-Vシステム解説書(有料)がありますので、弊社営業所サービス係にお問い合わせください。



■CI-V用マトリックスについて

CI-Vシステムを利用して、本機を外部コントロールするときに、本機のアドレス、ボーレート、トランシーブON/OFFのデータが必要となります。

これらのデータは、本機のLOGICユニットで次のように初期設定されています。

●ボーレート

ボーレート (bps)	B0	B1
9600	オープン	オープン
4800	ショート	オープン
1200	オープン	ショート
300	ショート	ショート

※CI-Vの標準ボーレートは1200bpsです。

●周波数データ

周波数データ	731
4byte	ショート
5byte	オープン

※CI-V搭載機でIC-731は4byte、他の機種は5byteに設定します。

●アドレス

A0 (1)	A1 (2)	A2 (4)	A3 (8)	A4 (16)	A5 (32)	A6 (64)	A7 (128)
オープン	オープン	ショート	オープン	ショート	ショート	オープン	オープン

※IC-R7100(34H)

●トランシーブ

トランシーブ	TR
ON	ショート
OFF	オープン

※は、すべて初期設定値の状態です。

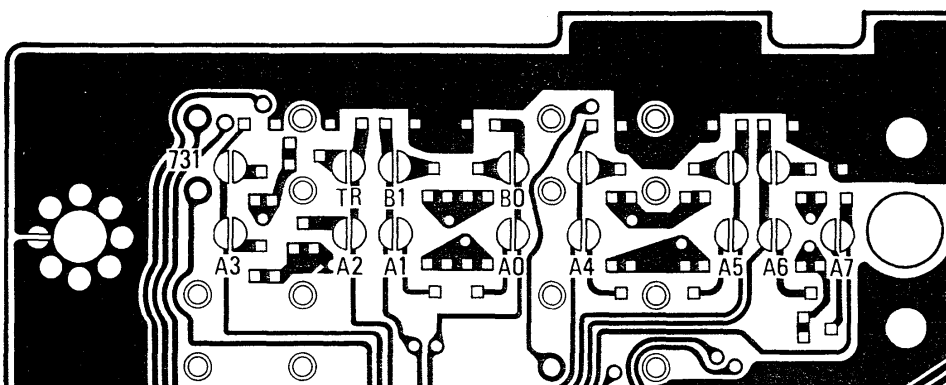
■テンキーによる変更

テンキーでトランシーブのON/OFFおよびボーレートの変更を行うことができます。

一旦電源をOFFにし、下記のスイッチを同時に押しながら電源をONにしてください。

項目	スイッチ操作
トランシーブ OFF	キーボードの[ENT]と②
トランシーブ ON	キーボードの[ENT]と③
トランシーブ ON (IC-731)	キーボードの[ENT]と④
ボーレート 9600	キーボードの[ENT]と⑤
ボーレート 4800	キーボードの[ENT]と⑥
ボーレート 1200	キーボードの[ENT]と⑦
ボーレート 300	キーボードの[ENT]と⑧
マトリックスの設定に戻す	キーボードの[ENT]と①

●LOGICユニットのハンダ付けポイント



※本機は、CI-Vデータとして上記のように設定されていますが、ボーレートおよびアドレスを変更するときは、マトリックス部のパターンをハンダ付け(ショート)することにより変更することができます。

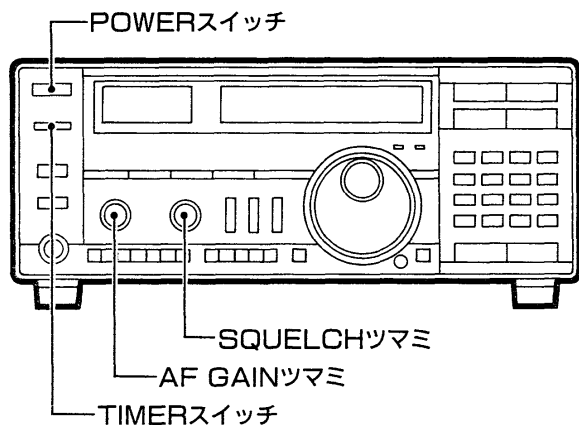
4-1 基本操作

1. 準備と確認

本機購入後、初めて電源を投入する際は、必ず次の点をチェックしてください。

- ① ACまたはDC電源コードの接続は、間違いありませんか？
- ② アンテナの接続は、間違いありませんか？
- ③ アースは正しく接続されていますか？
- ④ 外部機器をご使用の場合は、接続に間違いありませんか？
- ⑤ 上記に異常がなければ、前面パネルのスイッチ・ツマミを次のようにセットします。

スイッチ・ツマミ	セット位置
POWER	OFF (▲)
TIMER	OFF (▲)
AF GAIN	反時計方向に回し切る
SQUELCH	反時計方向に回し切る



2. 電源の投入

初期設定ができましたら、POWERスイッチを押して電源を入れます。

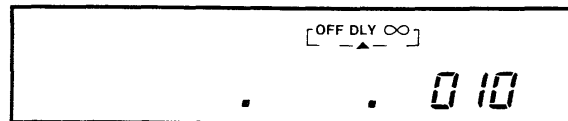
電源投入時は、電源を切る前の状態を記憶していますので、運用周波数、電波型式、メモリーチャンネルなどの状態がすぐに表示されます。

■メモリーチャンネルに周波数が書き込まれている状態



メインダイヤルにてチューニング操作ができます

■ブランク状態の表示



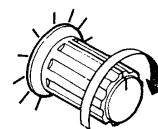
テンキーで任意の周波数を入力

ご注意

表示したメモリーチャンネルがブランク状態のときは、テンキーで運用周波数を入力してください。また、MODEスイッチを押すと自動的に下限周波数(25MHz)が表示されます。

3. AF GAIN (音量) の調整

AF GAINツマミを時計方向に回すと、“ザー”という雑音が聞こえてきますから、聞きやすい音量にしてください。



音量が大きくなる

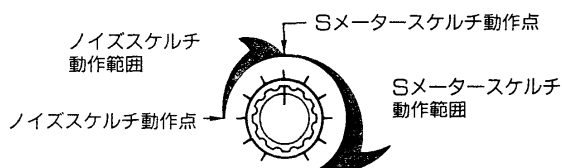
4. SQUELCH (スケルチ) の調整

SQUELCHツマミを時計方向にゆっくり回し、“ザー”という雑音が消え、“BUSY LED”が消える位置にセットしてください。(ノイズスケルチ調整)
さらに回して行くと、Sメーターが振れだしますから、希望の位置にセットします。(Sメータースケルチ調整)
Sメータースケルチの場合、セットしたSメーターの指示以下の受信信号は制限され、指示以上の信号だけを受信することができます。

※ノイズスケルチは、AM、AMW、FM、FMNモードで動作します。

※Sメータースケルチは、すべての電波型式で動作します。

ノイズスケルチ
動作範囲



Sメータースケルチ
動作範囲

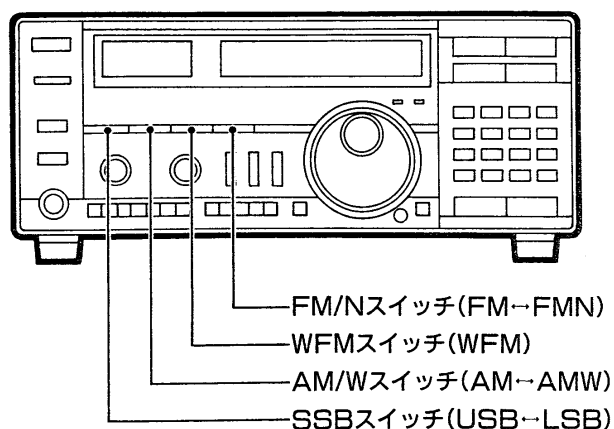
5. 電波型式の設定

受信を行う放送や通信に合わせて、電波型式を選択します。

電波型式の選択は、MODEスイッチで行います。

■おもな周波数帯域、電波型式、チューニングステップ表

周波数帯域	電波型式	チューニングステップ	通信用途
28~29.7MHz	USB FM	100Hz 20kHz	アマチュア無線
50~54MHz	USB FM AM/AMW	100Hz 20kHz 20kHz	アマチュア無線
76.1~89.9MHz	WFM	100kHz	FMラジオ放送
118~136MHz	AM	10kHz	エアバンド
144~146MHz	USB FM	100Hz 20kHz	アマチュア無線
156~162MHz	FM N	5kHz	マリンバンド
430~440MHz	USB FM	100Hz 20kHz	アマチュア無線
903~905MHz	FM N	12.5kHz	パーソナル無線
95.75~221.75MHz 475.75~769.75MHz	WFM	6(4)MHz	テレビ放送(音声) チャンネル別周波数リスト(☞P15)参照
1260~1300MHz	USB FM	100Hz 20kHz	アマチュア無線



4-2 周波数の設定

周波数を設定するには、テンキーによるダイレクトエンターとメインダイヤルによるマニュアルチューニングがあります。

1. テンキーによる設定

受信したい放送や通信の周波数がわかっている場合、または呼び出したメモリーチャンネルがブランク状態の場合などに、テンキーでダイレクトに設定できます。

- ①テンキーで希望する周波数を上の桁からキー入力すると、それまでに表示していた周波数が消え、キー入力した数値が右端(100Hz桁)から表示されます。
- ②さらにキー入力すると、表示は順次左側にシフトして行きます。
- ③MHz桁までの数値をキー入力したあとで□(ポイント)キーを押すと、それまでに入力された数値がMHz桁表示部へシフトします。
- ④100kHz以下の数値が“0”のときは、[ENT](エンター)キーを押すことによりキー入力の操作を省略することができます。
※省略しないで最終桁まで入力したときも、必ず[ENT]キーを押してください。
- ⑤数値を押し間違えたときは、[CE](クリア)キーを押して再入力してください。
- ⑥周波数を設定すると、自動的にFMモードが指定されます。

ご注意

ブランク状態で設定した周波数は、メモリーチャンネルに必ず書き込んでください。
書き込まないでメモリーチャンネルを切り換えると周波数は消去され元のブランク状態になります。

■使用例

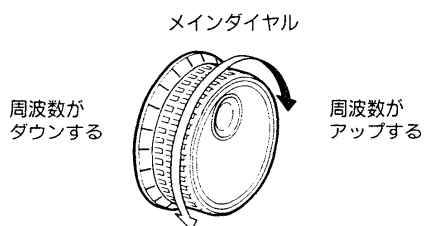
- 《例1》85.100.0MHzの設定
8 5 . 1 [ENT]と押します。
- 《例2》95.750.0MHzの設定
9 5 . 7 5 [ENT]と押します。
- 《例3》145.000.0MHzの設定
1 4 5 [ENT]と押します。
- 《例4》118.100.0MHzの設定
1 1 8 . 1 [ENT]と押します。

4 運用方法

2. メインダイヤルによる設定

受信したい放送や通信の周波数がわからない場合、または正確な同調をとる場合に使用します。

- ①テンキーで希望の周波数帯を設定します。
- ②メインダイヤルを時計方向に回すと周波数がアップ、反時計方向に回すと周波数がダウンします。
- ③Sメーターが最もよく振れ、目的信号が明瞭に聞こえるように、メインダイヤルを回して同調をとります。
なお、WFM、FM、FMN、AM、ANWモードの同調をとるときは、センターメーターの“■”が点灯するようにします。



3. チューニングステップについて

メインダイヤルで周波数を可変するときのチューニングステップを、[MHZ]スイッチ、[TS]スイッチで設定します。

チューニングステップの種類は、100Hz、1kHz、5kHz、10kHz、12.5kHz、20kHz、25kHz、100kHz、1MHzの9種類があります。

①[MHZ]スイッチによる設定

[MHZ]スイッチを押すと、MHz桁の上に“▼”が点灯し、1MHzステップが設定されます。

周波数を大きく動かすときなどにご利用ください。

●周波数表示



[MHZ]スイッチを押す

●MHz表示点灯



メインダイヤルのチューニングステップが1MHzステップとなる

②[TS]スイッチによる設定

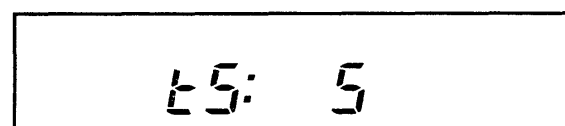
[TS]スイッチを押すと、ディスプレイの表示が下記のように切り換わり、メインダイヤルでチューニングステップを設定することができます。

●周波数表示

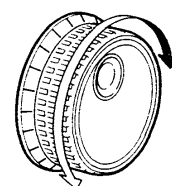
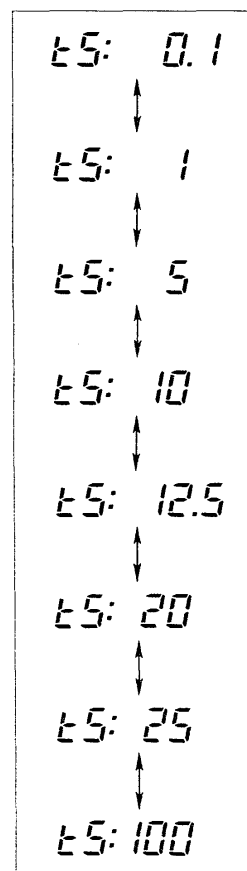


[TS]スイッチを押す

●TS表示



●TS表示(kHz)



メインダイヤルで設定

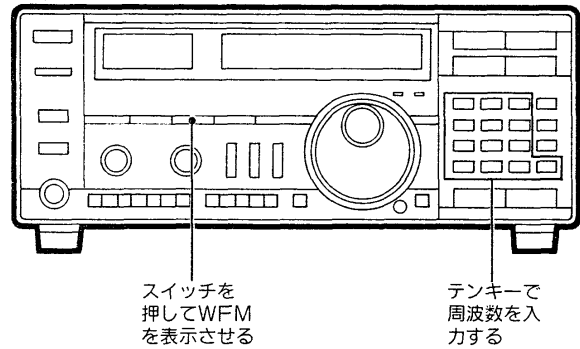
ご注意

周波数設定後にチューニングステップを変更し、メインダイヤルを回した場合、チューニングステップ以下の桁は“0”となります。

4-3 受信のしかた

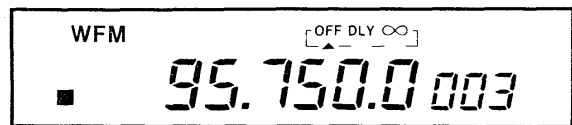
1. FMラジオ放送の受信 (FM大阪の場合)

- ①MODEスイッチの[WFM]を押して、ディスプレイに“WFM”を表示させます。
- ②テンキーで周波数を入力します。
 [8] [5] [.] [1] [ENT]と入力します。
- ③以上の設定により、FM大阪のラジオ放送がスピーカーから聞こえてきます。



2. TV放送(音声)の受信 (1CHの場合)

- ①MODEスイッチの[WFM]を押して、ディスプレイに“WFM”を表示させます。
- ②テンキーで周波数を入力します。
 [9] [5] [.] [7] [5] [ENT]と入力します。
- ③以上の設定により、テレビ放送(1CH)が聞こえてきます。



ご注意
 設定した内容が必要なときは、必ずメモリーチャンネルに書き込んでください。
 メモリーチャンネルへの書き込みは(※P21)をご覧ください。

- ※FMラジオ放送のチューニングステップは、100kHzが便利です。
- ※TV放送のチューニングステップは、1MHzが便利です。
- ※メインダイヤルで同調をとる場合は、センターメーターをご利用ください。
 同調がとれると“■”が点灯して表示します。

■TV放送(音声)の周波数表

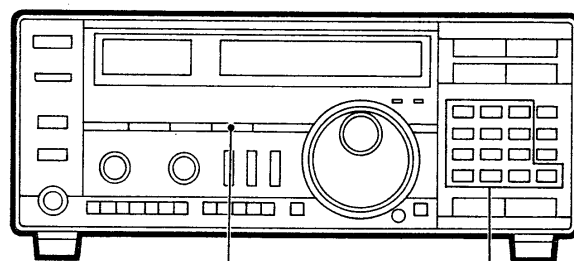
チャンネル	音声周波数(MHz)	チャンネル	音声周波数(MHz)
VHF 1CH	95.750	UHF 32CH	589.750
” 2CH	101.750	” 33CH	595.750
” 3CH	107.750	” 34CH	601.750
” 4CH	175.750	” 35CH	607.750
” 5CH	181.750	” 36CH	613.750
” 6CH	187.750	” 37CH	619.750
” 7CH	193.750	” 38CH	625.750
” 8CH	197.750	” 39CH	631.750
” 9CH	203.750	” 40CH	637.750
” 10CH	209.750	” 41CH	643.750
” 11CH	215.750	” 42CH	649.750
” 12CH	221.750	” 43CH	655.750
UHF 13CH	475.750	” 44CH	661.750
” 14CH	481.750	” 45CH	667.750
” 15CH	487.750	” 46CH	673.750
” 16CH	493.750	” 47CH	679.750
” 17CH	499.750	” 48CH	685.750
” 18CH	505.750	” 49CH	691.750
” 19CH	511.750	” 50CH	697.750
” 20CH	517.750	” 51CH	703.750
” 21CH	523.750	” 52CH	709.750
” 22CH	529.750	” 53CH	715.750
” 23CH	535.750	” 54CH	721.750
” 24CH	541.750	” 55CH	727.750
” 25CH	547.750	” 56CH	733.750
” 26CH	553.750	” 57CH	739.750
” 27CH	559.750	” 58CH	745.750
” 28CH	565.750	” 59CH	751.750
” 29CH	571.750	” 60CH	757.750
” 30CH	577.750	” 61CH	763.750
” 31CH	583.750	” 62CH	769.750

4 運用方法

3. アマチュア無線の受信

■144MHz帯FMモードの場合

- ①MODEスイッチの[FM/N]を押して、ディスプレイに“FM”を表示させます。
- ②テンキーで周波数を入力します。
[1] [4] [5] [ENT]と入力します。
- ③[TS]スイッチを押して、メインダイヤルで20kHzのチューニングステップを設定します。(☞P14)
- ④目的周波数にメインダイヤルでチューニングします。



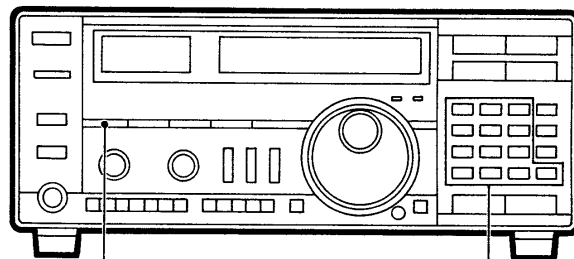
スイッチを押して
FMを表示させる

テンキーで
周波数を入力する



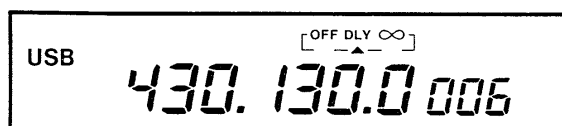
■430MHz帯SSBモードの場合

- ①MODEスイッチの[SSB]を押して、ディスプレイに“USB”を表示させます。
- ②テンキーで周波数を入力します。
[4] [3] [0] [.] [1] [3] [ENT]と入力します。
- ③[TS]スイッチを押して、メインダイヤルで100Hzのチューニングステップを設定します。(☞P14)
- ④目的周波数にメインダイヤルでチューニングします。



スイッチを押して
USBを表示させる

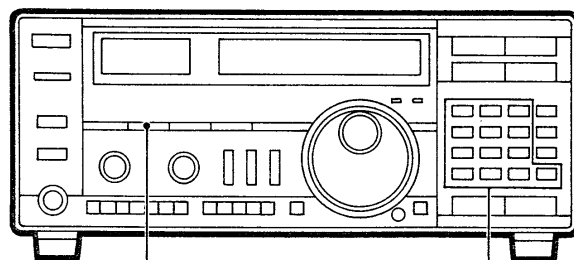
テンキーで
周波数を入力する



※アマチュア無線は、144MHz帯の他に50MHz帯、430MHz帯、1200MHz帯を受信することができます。

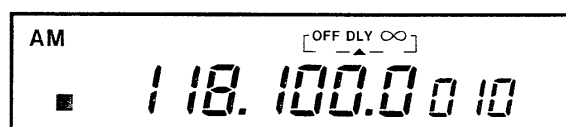
4. エアバンドの受信

- ①MODEスイッチの[AM/W]を押して、ディスプレイに“AM”を表示させます。
- ②テンキーで周波数を入力します。
[1] [1] [8] [.] [1] [ENT]と入力します。
- ③[TS]スイッチを押して、メインダイヤルで10kHzのチューニングステップを設定します。(☞P14)
- ④目的周波数にメインダイヤルでチューニングします。



スイッチを押して
AMを表示させる

テンキーで
周波数を入力する



4-4 諸機能の運用

1. NB (ノイズブランカー) の運用

AM、AMW、SSB(USB/LSB)モード受信時にパルス性ノイズが多いときは、**[NB・AFC]**スイッチを押し、ディスプレイに“NB”を点灯させてください。

2. AFC (自動周波数調整) の運用

WFM、FM、FMNモード受信時、高い周波数では、送信している局の周波数が徐々に動いていく場合があります。そのときは**[NB・AFC]**スイッチを押し、ディスプレイに“AFC”を点灯させてください。

自動周波数補正機能がONし、自動的に周波数を合わせます。

3. ATT (アッテネーター) の運用

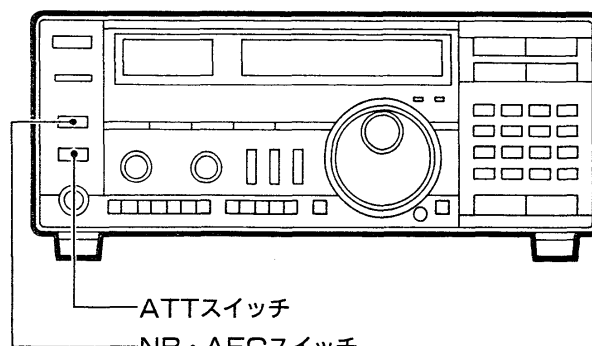
受信信号が強力すぎて受信音がひずむときは、**[ATT]**スイッチを押し、ディスプレイに“ATT”を点灯させてください。

約20dBのアッテネーターが動作し、強力な受信信号によるひずみをなくします。

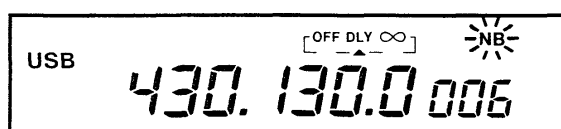
4. センターメーターについて

WFM、FM、FMN、AM、AMWモード受信時、メインダイヤルでチューニング（同調）をとるときにセンターメーターを利用すると簡単に同調をとることができます。

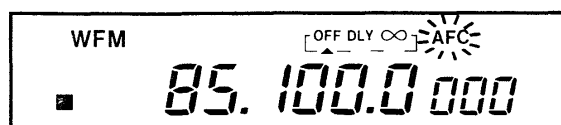
- ■点灯：同調がとれていることを表示します。
- ◀点灯：同調周波数が高いことを表示します。
(周波数をダウンしてください)
- ▶点灯：同調周波数が低いことを表示します。
(周波数をアップしてください)



● NB表示



● AFC表示



● ATT表示



● センターメーター表示



センターメーター

5-1 メモリーの運用

本機のメモリーチャンネルは、0～899、0P1～9P2の920チャンネルがあります。

メモリーチャンネルには周波数、電波型式、チューニングステップなどの情報を記憶させることができます。

メモリーチャンネル	用途
0～699	<ul style="list-style-type: none"> ●通常のメモリーチャンネル ●0～009まで初期設定で144.000.0MHzが書き込まれている(他はすべてブランク状態)
700～799	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムスキャン時のスキップ指定書き込みエリア(→P28) ●通常のメモリーチャンネルとして使用可
800～899	<ul style="list-style-type: none"> ●オートメモリーライトスキャン時の自動書き込みエリア(→P32) ●通常のメモリーチャンネルとして使用可
0P1～9P1	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムスキャン用の周波数設定書き込みエリア(→P26) ●初期設定で144.000.0MHzが書き込まれている
0P2～9P2	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムスキャン用の周波数設定書き込みエリア(→P26) ●初期設定で146.000.0MHzが書き込まれている

■メモリーチャンネルのBANK(バンク)指定について

すべてのメモリーチャンネルを使いやすくするため、100チャンネルごとにグループ分けすることができます。グループ分けは、バンクが指定(BANK表示点灯)されているときのみ有効となります。

- ①[BANK]スイッチをピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、ディスプレイに“BANK”が点灯します。
- ②再度、同じ操作を行うと解除することができます。
- ③なお、[BANK]スイッチのワンタッチ操作を行うと、メモリーチャンネルのグループ切り換え動作となります。(100チャンネルステップで切り換わる)

※バンクが指定されているときは、グループ内の呼び出し動作となります。

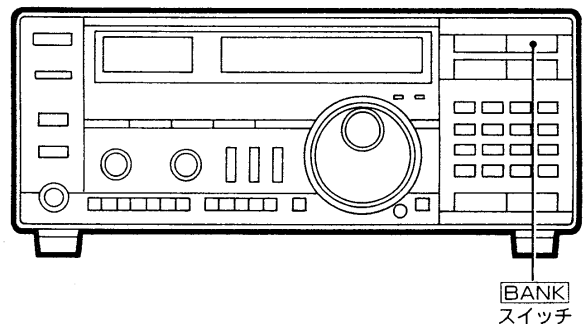
※テンキーでダイレクトにメモリーチャンネルを呼び出す場合は、バンク指定に関係なくすべてのメモリーチャンネルを呼び出すことができます。

■バンク指定時のメモリーチャンネルのグループ分けについて

下記の10グループにバンク指定されます。

- 000～099
- 100～199
- 200～299
- 300～399
- 400～499
- 500～599
- 600～699
- 700～799
- 800～899
- 0P1～9P2

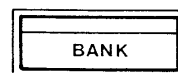
■操作例



[BANK]
スイッチ



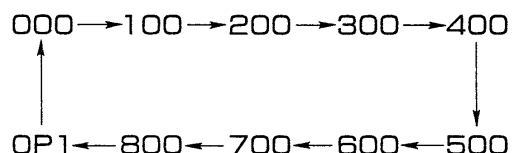
メモリーチャンネル表示



ピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、バンク指定のON/OFF



ワンタッチ操作のときは、メモリーチャンネルのグループ切り換え



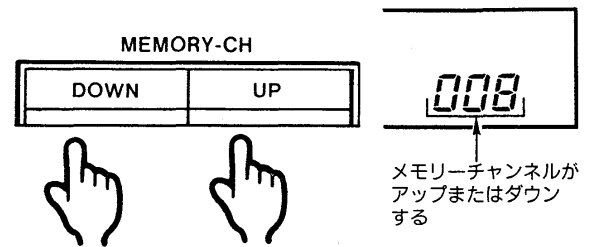
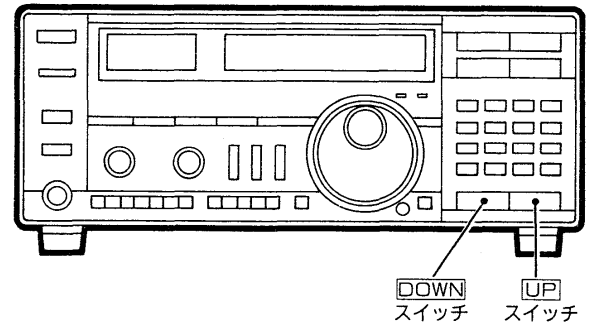
5-2 メモリーの呼び出しかた

メモリーチャンネルの呼び出しは、MEMORY-CHの [UP] [DOWN] スイッチで呼び出す方法、テンキーでダイレクトに呼び出す方法があります。
また、キーボードの [Mch] キーを押しながらメインダイヤルで呼び出す方法があります。

1. MEMORY-CH [UP] [DOWN] スイッチによる呼び出し

[UP] または [DOWN] スイッチを押すごとに、メモリーチャンネルがアップまたはダウンし、押し続けると連続動作となり、すべてのメモリーチャンネルを呼び出します。

■操作例



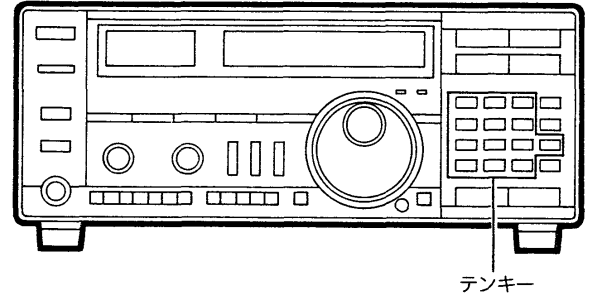
2. テンキーによる呼び出し

すでに呼び出しているメモリーチャンネルから離れているチャンネルを呼び出すときに便利です。

- ①テンキーで希望のメモリーチャンネル番号(0~919)を入力すると、周波数表示部にキー入力した数値が表示されます。
- ②入力した数値のあとに [Mch] キーを押すことにより、設定したメモリーチャンネルを呼び出すことができます。
- ③キー入力の数値を間違えたときは、[CE] (クリア) キーを押して再入力してください。

- ※920以上の数値を入力した場合は無効となります。
- ※バンク指定に関係なく、すべてのメモリーチャンネルを呼び出すことができます。

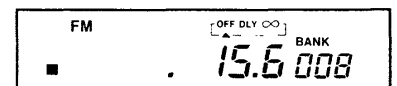
■操作例



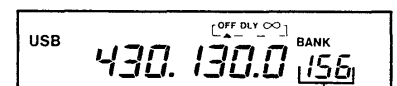
●運用状態



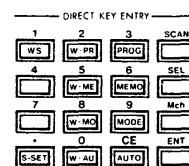
[1] [5] [6] と押す



[Mch] を押す



メモリーチャンネル "156" が呼び出される



■使用例

- 《例1》メモリーチャンネル "0" の呼び出し
[0] [Mch] と押します。
- 《例2》メモリーチャンネル "156" の呼び出し
[1] [5] [6] [Mch] と押します。
- 《例3》メモリーチャンネル "0P1" の呼び出し
[9] [0] [0] [Mch] と押します。
- 《例4》メモリーチャンネル "9P2" の呼び出し
[9] [1] [9] [Mch] と押します。

※0~899までの数値は通常のメモリーチャンネルの呼び出し、900~919の数値はプログラムスキャン用メモリーチャンネルの呼び出しとなります。

5 メモリー操作

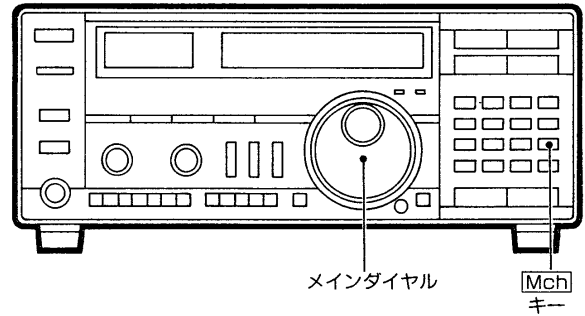
3. メインダイヤルによる呼び出し

キーボードの[Mch]キーと、メインダイヤルでメモリーチャンネルを呼び出すことができます。
メモリーチャンネルの内容を確認するときなどにご利用ください。

■キーボードの[Mch]キーを押しながら、メインダイヤルを回すと、すべてのメモリーチャンネルを呼び出すことができます。

※バンクが指定されているときは、グループ内の呼び出し動作となります。

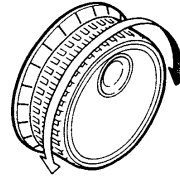
■操作例



押しながら



点滅する



メモリーチャンネルが
アップすまたはダウン
する

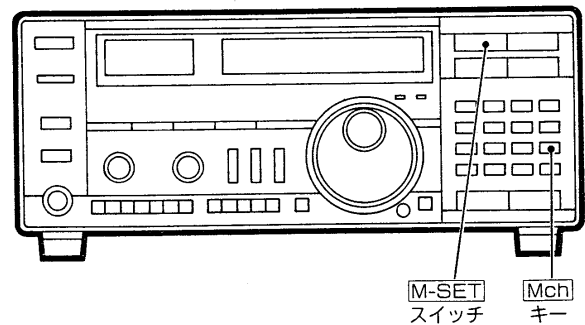
4. 同一周波数の呼び出し

[M-SET]スイッチと、キーボードの[Mch]キーで同じ周波数を記憶しているメモリーチャンネルを呼び出すことができます。

同じ周波数が複数のメモリーチャンネルに書き込まれていないかを確認することができます。

■[M-SET]スイッチを押しながら、キーボードの[Mch]キーを押すごとに、同じ周波数が書き込まれたメモリーチャンネルを呼び出すことができます。

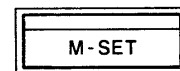
■操作例



押しながら



点滅する



同じ周波数が他のメモリーチャンネルに記憶
されていれば呼び出される

5-3 メモリーへの書き込みかた

メモリーチャンネルには、周波数、電波型式、チューニングステップの情報を記憶させることができます。

1. セットした内容で書き込む

- ① MEMORY-CH [UP] [DOWN] スイッチおよびテンキー、またはメインダイヤルでメモリーチャンネルをセットします。
- ② テンキーまたはメインダイヤルで周波数をセットします。
- ③ MODE スイッチで電波型式をセットします。
- ④ 表示内容を確認したのち、[MW] スイッチをビープ音が“ピッピ”と鳴るまで押すと、セットした内容が書き込まれます。

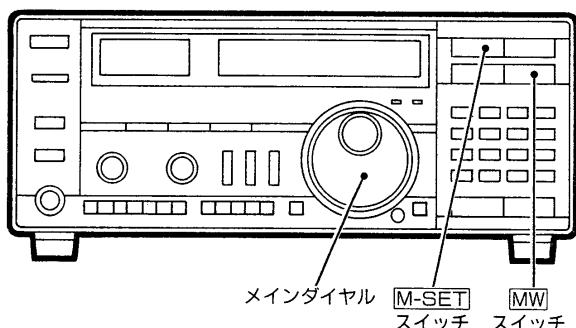
※呼び出したメモリーチャンネルがブランク状態のときは、テンキーで周波数をセットしてください。
 ※運用周波数帯に合わせてチューニングステップをセットしておくとう便利です。(P14参照)

2. 呼び出した内容を変更して別のメモリーチャンネルに書き込む

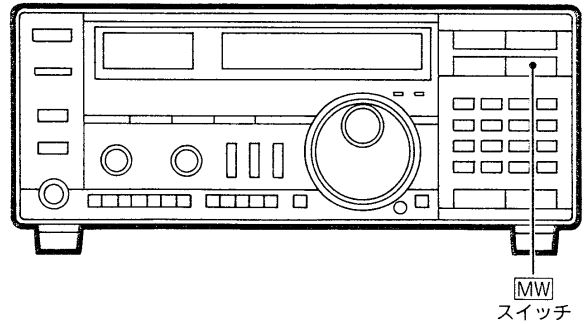
呼び出した内容を変更（メインダイヤルでチューニング操作を行い別の信号を受信したときなど）して、別のメモリーチャンネルにその内容を書き込むことができます。

- ① [M-SET] スイッチを押しながら、メインダイヤルまたはMEMORY-CH [UP] [DOWN] スイッチで、ブランクのメモリーチャンネルを選択します。
- ② [MW] スイッチをビープ音が“ピッピ”と鳴るまで押すと、変更した内容が書き込まれます。

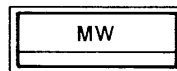
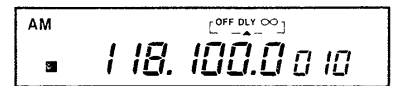
※ [M-SET] スイッチを押すと、変更した周波数が元の周波数に戻り、メモリーチャンネルをセットし、[M-SET] スイッチから指を離すと変更した周波数が表示されます。



■操作例

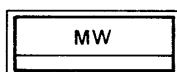
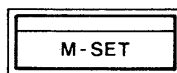
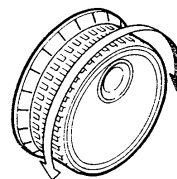
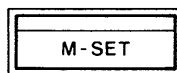
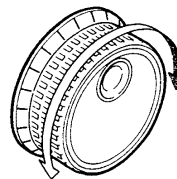


- 指定のメモリーチャンネルに周波数、電波型式などをセットする

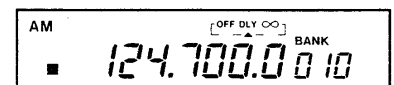


ビープ音が“ピッピ”と鳴るまで押すと、メモリーチャンネルに書き込まれる

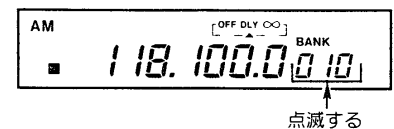
■操作例



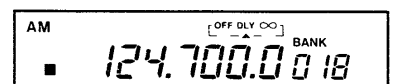
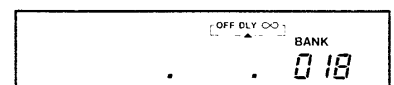
チューニング操作を行う



元の周波数表示に戻り、メモリーチャンネルが点滅する



ブランクチャンネルを選択する



チューニング操作でセットした周波数が表示される

ビープ音が“ピッピ”と鳴るまで押すと、書き込まれる

5 メモリー操作

3. セレクトNo.の指定のしかた

大容量のメモリーチャンネルにセレクトNo.を指定し、チャンネルごとに整理することができます。

- ①MEMORY-CH [UP] [DOWN] スイッチおよびテンキー、またはメインダイヤルでメモリーチャンネルをセットします。
- ②キーボードの[SEL]キーを押しながら、メインダイヤルでセレクトNo.(0~9, S)を指定します。
このとき、ディスプレイにセレクトNo.が点灯し、点滅します。
- ③セレクトNo.を解除するときは、再度[SEL]キーを押してください。
また、解除するセレクトNo.を呼び出し、[SEL]キーを押しながら、[M-CL]スイッチを押すと、同じセレクトNo.をすべてクリアすることができます。

- ※セレクトNo.の“S”はSKIP(スキップ)の略です。
- ※メモリーチャンネルがブランク状態およびプログラムスキャン用メモリーチャンネルには、セレクトNo.を指定することはできません。
- ※メモリーチャンネルを呼び出し、周波数をセットした状態(メモリーチャンネルに書き込んでいない状態)のときも、セレクトNo.の指定はできません。

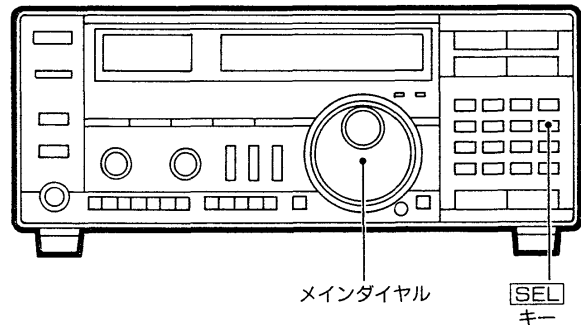
4. メモリーの消去

不要になったメモリーチャンネルの内容を消去することができます。

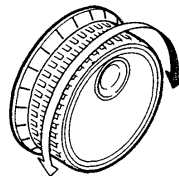
- ①MEMORY-CH [UP] [DOWN] スイッチおよびテンキー、またはメインダイヤルで不要になったメモリーチャンネルを呼び出します。
- ②[M-CL]スイッチをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、メモリーチャンネルの内容は消去され、ブランク状態になります。

※プログラムスキャン用のメモリーチャンネルは消去できません。

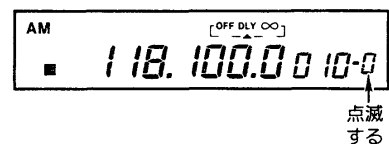
■操作例



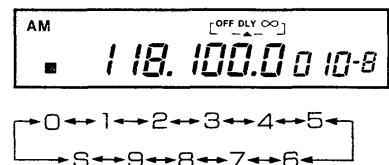
押しながら



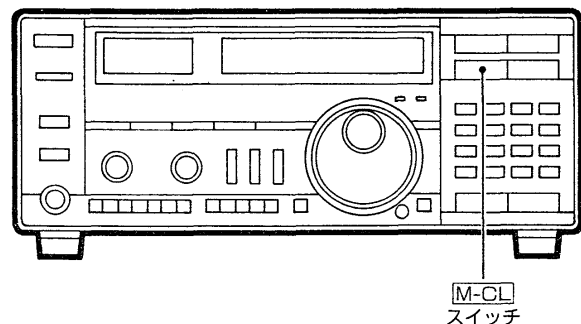
セレクトNo.が点滅する



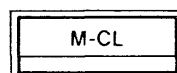
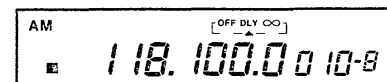
セレクトNo.(0~9, S)を指定する



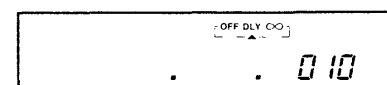
■操作例



● 不要のメモリーチャンネルを呼び出す



ビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、消去される



6-1 スキャンの運用

本機の基本的なスキャンは、プログラムスキャン、メモリスキャン、モードスキャン、オートメモリーライトスキャンがあります。

さらに新設計のWINDOW(ウインドウ)機能を利用した、ウインドウ・スキャン、ウインドウ・プログラムスキャン、ウインドウ・メモリスキャン、ウインドウ・モードスキャン、ウインドウ・オートメモリーライトスキャンなど多彩なスキャン機能があります。

スキャンの種類	スキャンの動作
プログラムスキャン	プログラムスキャン用メモリーチャンネルに設定した周波数範囲をスキャンする (※P27参照)
メモリスキャン	書き込まれているメモリーチャンネルをスキャンするバンク(BANK表示点灯)が指定されているときは、バンク内のスキャンとなる (※P29参照)
モードスキャン	指定の電波型式と同じ電波型式のメモリーチャンネルだけをスキャンする バンク(BANK表示点灯)が指定されているときは、バンク内のスキャンとなる (※P31参照)
オートメモリーライトスキャン	プログラムスキャンと同じ動作 スキャン中、信号を受信するたびにその周波数を自動的にメモリー"800~899"へ順次書き込み動作を行う (※P32参照)
ウインドウ・スキャン	表側ウインドウの内容と裏側ウインドウの内容を一定周期で切り換えてスキャンする (※P33参照)
ウインドウ・プログラムスキャン	表側ウインドウの内容と裏側ウインドウのプログラムスキャンを一定周期で切り換えて表示する (※P34参照)
ウインドウ・メモリスキャン	表側ウインドウの内容と裏側ウインドウのメモリスキャンを一定周期で切り換えて表示する (※P35参照)
ウインドウ・モードスキャン	表側ウインドウの内容と裏側ウインドウのモードスキャンを一定周期で切り換えて表示する (※P36参照)
ウインドウ・オートメモリーライトスキャン	表側ウインドウの内容と裏側ウインドウのオートメモリーライトスキャンを一定周期で切り換えて表示する (※P37参照)

6-2 スキャンを運用する前に

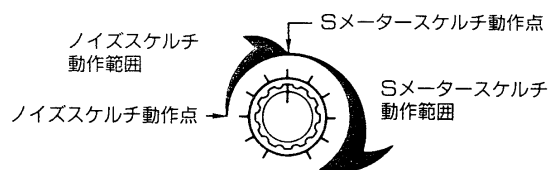
スキャンを運用する前に下記の付加機能を設定しておく
と便利です。

1. スケルチの設定

スキャン機能を運用する前に、SQUELCHツマミを時計方向に回して"ザァー"という雑音が消え、BUSY LEDが消える位置にセットしてください。

※ノイズスケルチは、AM、AMW、FM、FMNモードで動作します。

※Sメータースケルチは、すべての電波型式で動作します。



ご注意

スケルチの動作は、電波型式により異なります。特に各種ウインドウ・スキャンを運用するとき(AMモードとWFMモードなど)は、スケルチの動作点が異なり、このような場合はWFMモードのSメータースケルチで設定してください。

6 スキャン操作

2. VSC(ボイススキャンコントロール)機能の設定

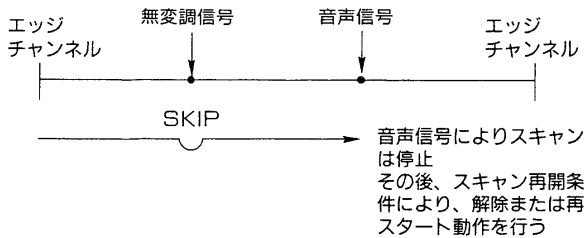
ボイススキャンコントロール機能は、スキャン動作中に信号を受信して、その信号に音声信号が含まれているかどうかを識別します。(識別判定時間 約1秒)
信号に音声信号が含まれていればスキャン動作は停止し、含まれていなければ継続してスキャンします。
VSC機能を動作させるには、**[VSC]**スイッチを押してディスプレイに“VSC”を点灯させます。



“VSC”表示がON/OFFする



- VSC表示点灯：VSC機能ON
- VSC表示消灯：VSC機能OFF



3. SKIP(スキップ)機能の設定

スキップ機能は、SKIP指定されているメモリーチャンネル(周波数)をスキップしてスキャンします。
SKIP機能を動作させるには、**[SKIP]**スイッチを押してディスプレイに“SKIP”を点灯させます。



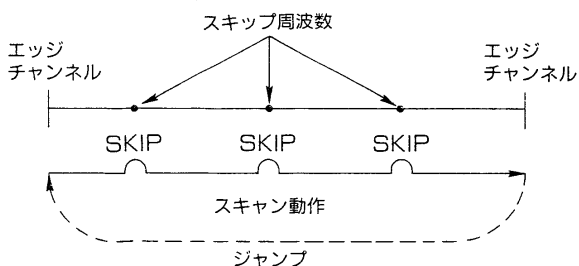
“SKIP”表示がON/OFFする



- SKIP表示点灯：SKIP機能ON
- SKIP表示消灯：SKIP機能OFF

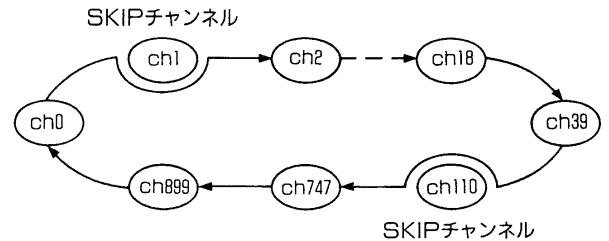
●プログラムスキャン系の動作

スキャン動作中にストップした周波数がメモリーチャンネルにSKIP指定されている周波数と一致したときスキップします。



●メモリスキャン系の動作

SKIP指定されているメモリーチャンネルはスキップしてスキャンします。



※メモリーチャンネル(周波数)のSKIP指定は、**[SEL]**キーを押しながらメインダイヤルを回して“S”を指定します。(P22参照)

4. スキャン再開条件の設定

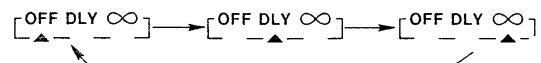
スキャン動作中に信号でスキャンがストップしたあと、スキャンを解除するか再開するかを**[DELAY]**スイッチで設定します。

[DELAY]スイッチを押すごとにDELAY表示部の“OFF”“DLY”“∞”の下に“▲”マークが点灯して表示します。

OFF ▲	受信信号がなくなるまで停止を続ける 途中で受信信号がなくなると、約2秒後に再スタートする
DLY ▲	スキャンセットモードにてセットした時間だけ停止、その後再スタートする 途中で受信信号がなくなると、約2秒後に再スタートする
∞ ▲	受信信号にてスキャンを解除する



“▲”マークが切り換わり表示する



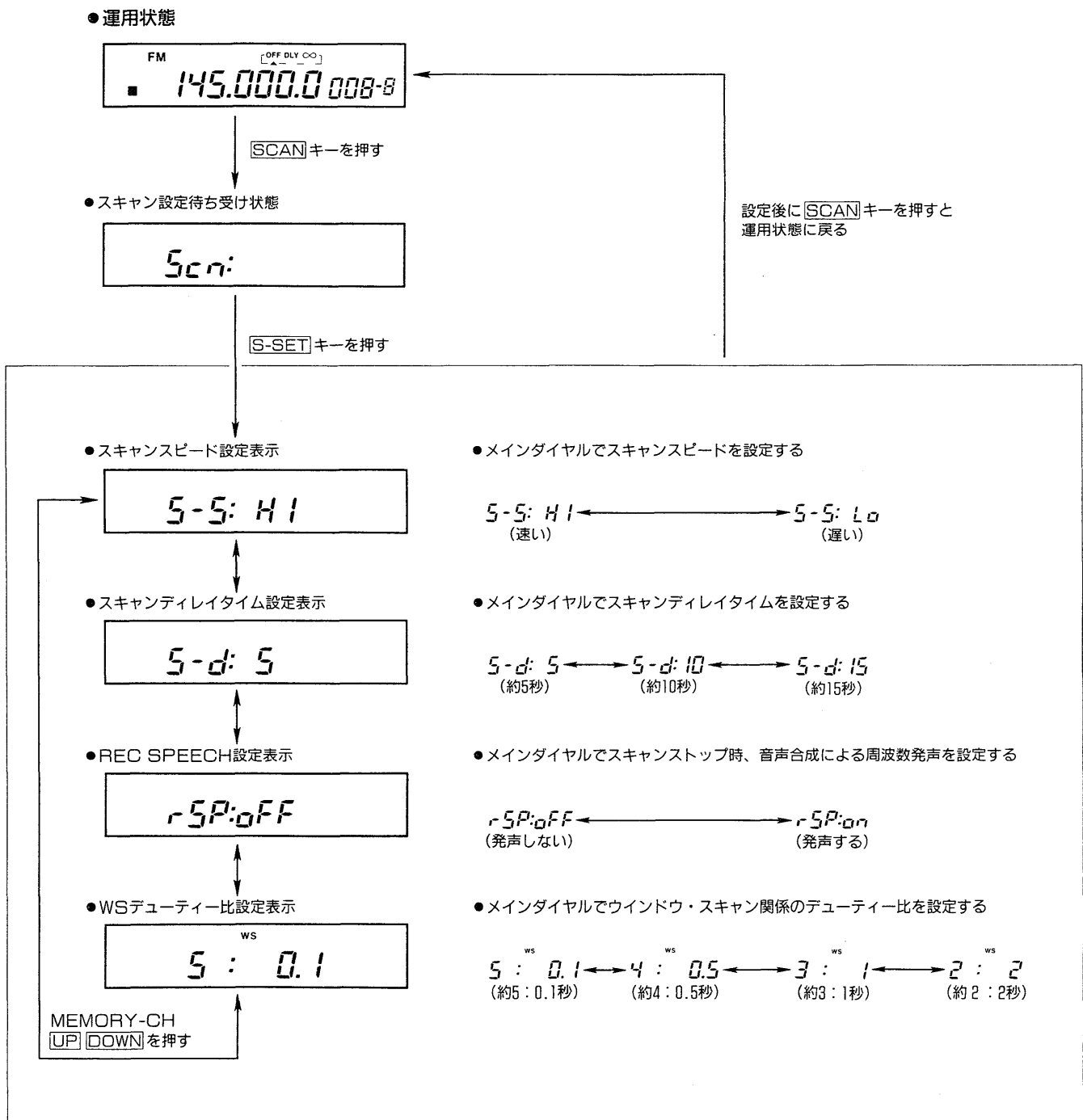
6-3 スキャンセットモードについて

スキャンセットモードでは、スキャンスピード、DELAY TIME(ディレイタイム)、REC SPEECH(音声合成)、WS(ウインドウ・スキャン)のデューティー比を設定することができます。

■スキャンセットモードにするには

- ① キーボードの[SCAN]キーを押し、次に[S-SET]キーを押すことにより、スキャンセットモードになります。
- ② スキャンセットモードの切り換えは、MEMORY-CH [UP] [DOWN]スイッチで行います。
- ③ 各スキャンセットモードの内容設定は、メインダイヤルで行います。
- ④ 設定後[SCAN]キーを押すことにより、通常の運用状態に戻ります。

※スキャン動作中にスキャンセットモードを呼び出し、その内容を変更することもできます。



6 スキャン操作

6-4 プログラムスキャンについて

プログラムスキャン用メモリーは20チャンネルあり、10グループの周波数範囲を設定することができます。

プログラムスキャン用メモリーには各グループごとに、初期設定で144.000.0MHzと146.000.0MHzが設定されています。

下記の表を参照して、10グループにおもな周波数範囲を書き込んでおくと便利です。

■プログラムスキャン用メモリーの使用例

グループ番号	メモリーチャンネル	設定周波数	スキャン範囲	通信用途
P-0	0P1 0P2	28.000.0MHz 29.700.0MHz	28.000.0~29.700.0MHz をスキャンする	アマチュア無線
P-1	1P1 1P2	50.000.0MHz 54.000.0MHz	50.000.0~54.000.0MHz をスキャンする	アマチュア無線
P-2	2P1 2P2	76.100.0MHz 89.900.0MHz	76.100.0~89.900.0MHz をスキャンする	FMラジオ無線
P-3	3P1 3P2	118.000.0MHz 136.000.0MHz	118.000.0~136.000.0MHz をスキャンする	エアバンド
P-4	4P1 4P2	144.000.0MHz 146.000.0MHz	144.000.0~146.000.0MHz をスキャンする	アマチュア無線
P-5	5P1 5P2	156.000.0MHz 162.000.0MHz	156.000.0~162.000.0MHz をスキャンする	マリンバンド
P-6	6P1 6P2	430.000.0MHz 440.000.0MHz	430.000.0~440.000.0MHz をスキャンする	アマチュア無線
P-7	7P1 7P2	903.000.0MHz 905.000.0MHz	903.000.0~905.000.0MHz をスキャンする	パーソナル無線
P-8	8P1 8P2	475.750.0MHz 769.750.0MHz	475.750.0~769.750.0MHz をスキャンする	テレビ放送(UHF帯)
P-9	9P1 9P2	1260.000.0MHz 1300.000.0MHz	1260.000.0~1300.000.0MHz をスキャンする	アマチュア無線

1. プログラムスキャン用メモリーの書き込み

- ①MEMORY-CH [UP] [DOWN] スイッチおよびテンキー、またはメインダイヤルでプログラムスキャン用メモリーチャンネル"0P1"をセットします。
- ②テンキーまたはメインダイヤルで周波数をセットします。
- ③MODEスイッチで電波型式をセットします。
- ④[MW]スイッチをピープ音が"ピッピピ"と鳴るまで押し"0P1"に書き込みます。

⑤MEMORY-CH [UP] [DOWN] スイッチおよびテンキー、またはメインダイヤルでプログラムスキャン用メモリーチャンネル"0P2"をセットします。

⑥テンキーまたはメインダイヤルで周波数をセットします。

⑦MODEスイッチで電波型式をセットします。

⑧[MW]スイッチをピープ音が"ピッピピ"と鳴るまで押し"0P2"に書き込みます。

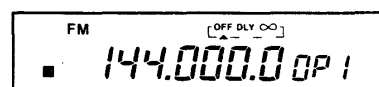
※以上で"P-0"グループの周波数範囲の設定ができました。残りの"P-1~P-9"グループに周波数範囲を同様の方法で設定してください。

※運用周波数帯にあわせて、チューニングステップをセットしておくくと便利です。(P14参照)

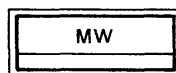
■操作例

テンキーの場合は [9] [0] [0] [Mch] と押す

- プログラムスキャン用メモリーチャンネル"0P1"を呼び出す



- 周波数、電波型式などをセットする

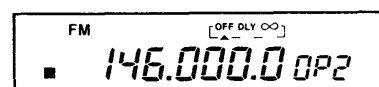


ピープ音が"ピッピピ"と鳴るまで押すと、書き込まれる

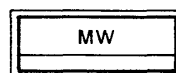
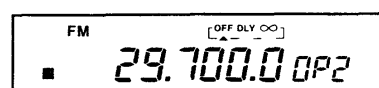


テンキーの場合は [9] [0] [1] [Mch] と押す

- プログラムスキャン用メモリーチャンネル"0P2"を呼び出す



- 周波数、電波型式などをセットする



ピープ音が"ピッピピ"と鳴るまで押すと、書き込まれる



2. プログラムスキャンの運用

プログラムスキャン用メモリーチャンネルの“P-0～P-9”グループに書き込まれている周波数範囲をスキャンします。

また、スキャン動作中にノイズ(雑音)またはキャリア(無変調)などで、スキャンが一時停止します。

このような場合に、その周波数をスキップ登録することにより、次回からその周波数をスキップしてスキャンさせることができます。

(スキップ周波数の登録についてはP22、28参照)

- ①前項「スキャンを運用する前に」にしたがって、スケルチ、VSC、スキャンの再開条件などを設定します。
- ②キーボードの[SCAN]キーを押して、スキャン設定待ち受け状態にします。
- ③キーボードの[PROG]キーを押すと、プログラムスキャンのグループ設定状態になります。
- ④[PROG]キーを押しながらメインダイヤルを回して、グループ(P-0～P-9)の指定をします。
- ⑤[PROG]キーから指を離すと、プログラムスキャンがスタートします。
スキャン動作中は、MHz桁、kHz桁のデシマルポイントが点滅して表示します。
- ⑥プログラムスキャン動作中に[SKIP]スイッチを押すと(SKIP表示点灯)、プログラムスキップスキャン動作になります。
スキップ指定のメモリーチャンネル(799～700)に登録されている周波数をスキップしてスキャンします。
また、通常のメモリーチャンネルにスキップが指定されていれば、その周波数もスキップしてスキャンします。
- ⑦再度[SKIP]スイッチを押すと、“SKIP”表示が消灯し、プログラムスキャンに戻ります。
- ⑧スキャンの解除は、MEMORY-CH[UP] (STOP)スイッチを押してください。

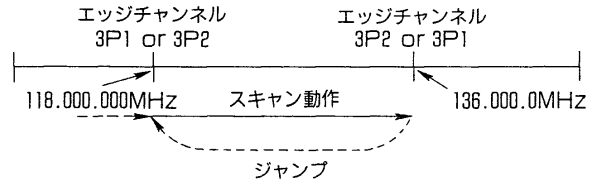
※スキャン動作中にTS(チューニングステップ)を変更することができます。

※スキャン動作中にテンキーの(0～9)を押すことにより、グループの変更をすることができます。

※スキャン動作中に電波型式を変更することができます。

※スキャン動作中にスキャンセットモードを呼び出し、その内容を変更することができます。

●プログラムスキャンの動作



■操作例(スキャングループ“P-3”の場合)

スキャン設定待ち受け状態

グループ設定状態

を押しながら

グループ番号“P-3”を指定する

P-0 → P-1 → P-2 → P-3 → P-4
P-9 ← P-8 ← P-7 ← P-6 ← P-5

キーから指を離すとプログラムスキャンがスタートする

“SKIP”表示が点灯しプログラムスキップスキャン動作となる

スイッチを押すとスキャンが解除する

6 スキャン操作

3. スキップ周波数の登録のしかた

- ①プログラムスキャンの運用にしたがって、プログラムスキャンをスタートします。
- ②[SKIP]スイッチを押して、ディスプレイに“SKIP”を点灯させます。
- ③雑音または無変調により、スキャンが一時停止したときに、[MW]スイッチをビーブ音が“ピッピビ”と鳴るまで押し、その周波数がスキップ指定のメモリーチャンネル(799~700)に順次書き込まれます。
- ④書き込みが終わると、自動的にスキャンがスタートします。
- ⑤他の周波数を登録するときも、③の操作を行います。以上の操作により、スキップ周波数が登録されます。
- ⑥プログラムスキャン動作中に[SKIP]スイッチを押すと(SKIP表示点灯)、プログラムスキップスキャン動作となり、登録されている周波数をスキップしてスキャンします。

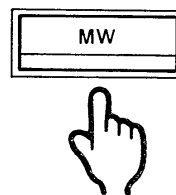
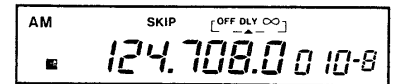
■操作例



プログラムスキャン中に“SKIP”表示を点灯させる



雑音または無変調でスキャンがストップする



スキャンストップ中にビーブ音が“ピッピビ”と鳴るまで押し、スキップ指定のメモリーチャンネル(799~700)に順次書き込まれる

4. スキップ登録の取り消しかた

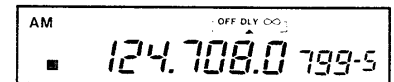
- ①MEMORY-CH[UP][DOWN]スイッチおよびテンキー、またはメインダイヤルでスキップ登録されているメモリーチャンネル(799~700)を呼び出します。
 - ②キーボードの[SEL]キーを押して、セレクトNo表示の“S”を消灯させてください。
- 以上の操作で、その周波数が再度スキャンに参加します。

※ その内容が不要であれば[M-CL]スイッチをビーブ音が“ピッピビ”と鳴るまで押し、メモリークリアを行ってください。

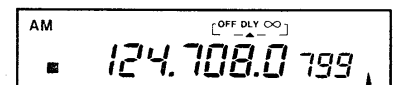
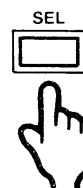
■操作例

- スキップ指定のメモリーチャンネル“799”を呼び出す

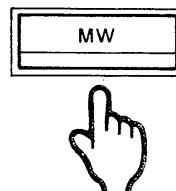
テンキーの場合は[7][9][9][Mch]と押す



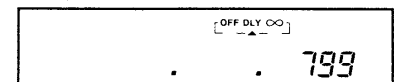
キーを押して“S”表示を消灯させる



消灯する



ビーブ音が“ピッピビ”と鳴るまで押し、消去される

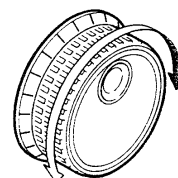


(ブランクチャンネル表示)

5. スキャン方向の変更について

通常スキャンはアップ方向で動作しています。スキャン動作中にスキャン方向を変更するときは、メインダイヤルで行います。

- 時計方向に回す：スキャン方向がアップ動作となる。
- 反時計方向に回す：スキャン方向がダウン動作となる。



アップ動作となる

ダウン動作となる

6-5 メモリスキャンについて

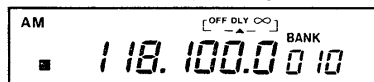
バンク指定による特定範囲、またはすべてのメモリーチャンネルをスキャンします。

1. BANK (バンク) 指定について

書き込まれているすべてのメモリーチャンネルをスキャンするか、バンクを指定してグループ内のメモリーチャンネルをスキャンするかを、**[BANK]** スイッチで指定します。(P18参照)



ピープ音が「ビッビビ」と鳴るまで押すと「BANK」表示がON/OFFする

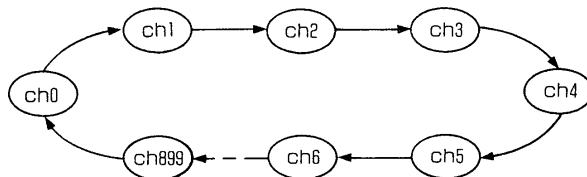


- BANK表示消灯：書き込まれているすべてのメモリーチャンネルをスキャンする。
- BANK表示点灯：グループ内に書き込まれているメモリーチャンネルをスキャンする。

2. メモリスキャンの運用

- ①前項「スキャンを運用する前に」にしたがって、スケルチ、VSC、スキャンの再開条件などを設定します。
- ②キーボードの**[SCAN]**キーを押して、スキャン設定待ち受け状態にします。
- ③キーボードの**[MEMO]**キーを押すと、メモリスキャンの設定状態になります。
- ④**[MEMO]**キーを押しながら、メインダイヤルを回してメモリスキャンまたはセレクトメモリスキャンを指定します。
 - Sch：S-AL(オール)を指定した場合
オールスキャンとなり、書き込まれているすべてのメモリーチャンネルをスキャンします。
 - Sch：S-0~9を指定した場合
セレクトメモリスキャンとなり、同じセレクトNoが指定されているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
- ⑤**[MEMO]**キーから指を離すと、指定されたメモリスキャンがスタートします。
スキャン動作中は、MHz桁、kHz桁のデシマルポイントが点滅して表示します。
- ⑥メモリスキャン動作中に**[SKIP]**スイッチを押すと(SKIP表示点灯)、メモリスキップスキャン動作になります。(オールスキャンのみ動作します)
スキップが指定されているメモリーチャンネルをスキップしてスキャンします。
- ⑦再度**[SKIP]**スイッチを押すと、「SKIP」表示が消灯し、メモリスキャンに戻ります。
- ⑧スキャンの解除は、MEMORY-CHUP(STOP)スイッチを押してください。

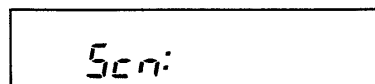
●メモリスキャンの動作



■操作例



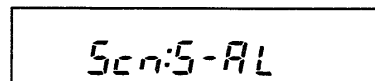
スキャン設定待ち受け状態



6

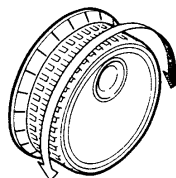


オールメモリスキャンの指定状態

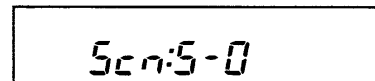


書き込まれているすべてのメモリーチャンネルをスキャンする

押しながら

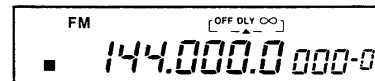


セレクトNo."0"を指定する

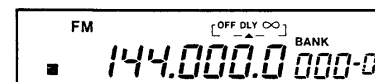


セレクトNo."0"が指定されているメモリーチャンネルだけをスキャンする

キーから指を離すとメモリスキャンがスタートする



バンクが指定されていれば、グループ内のメモリスキャンがスタートする

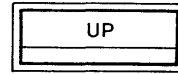


6 スキャン操作

- ※スキャン動作中にメインダイヤルでスキャンの方向を変更することができます。時計方向でアップ、逆に回すとダウンスキャンとなります。
- ※メモリスキャン動作中にテンキーの(0~9)を押すことにより、セレクトNo.が指定されセレクトメモリスキャン動作に切り換わります。
- ※セレクトメモリスキャン動作中にテンキーの[.] (ポイント)を押すと、メモリスキャン動作に切り換わります。
- ※スキャン動作中にスキャンセットモードを呼び出し、その内容を変更することができます。



"SKIP"が点灯しメモリスキップスキャン動作となる



STOP



スイッチを押すとスキャンが解除する

6-6 モードスキャンについて

指定した電波型式と同一のメモリーチャンネルだけをスキャンします。

また、メモリスキャン同様にバンクを指定してグループ内をスキャンさせることもできます。

■モードスキャンの運用

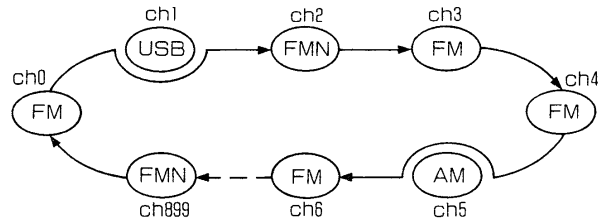
- ①前項「スキャンを運用する前に」にしたがって、スケルチ、VSC、スキャン、の再開条件などを設定します。
- ②キーボードの[SCAN]キーを押して、スキャン設定待ち受け状態にします。
- ③キーボードの[MODE]キーを押すと、電波型式設定状態になります。
- ④[MODE]キーを押しながら、[MODE]スイッチで電波型式を指定します。
- ⑤[MODE]キーから指を離すと、モードスキャンがスタートします。
スキャン動作中は、MHz桁、kHz桁のデシマルポイントが点滅して表示します。
- ⑥モードスキャン動作中に[SKIP]スイッチを押すと（SKIP表示点灯）、モードスキップスキャンとなり、スキップが指定されているメモリーチャンネルをスキップしてスキャンします。
（指定した同一の電波型式のみ）
- ⑦再度[SKIP]スイッチを押すと、「SKIP」表示が消灯し、モードスキャンに戻ります。
- ⑧スキャンの解除は、MEMORY-CH[UP] (STOP) スイッチを押してください。

※スキャン動作中にメインダイヤルでスキャンの方向を変更することができます。時計方向でアップ、逆に回すとダウンスキャンとなります。

※スキャン動作中に電波型式を変更することができます。

※スキャン動作中にスキャンセットモードを呼び出し、その内容を変更することができます。

●モードスキャンの動作



■操作例 (FMモードを指定した場合)

を押しながら
FM/N

スキャン設定待ち受け状態

電波型式設定状態

“FM”または“FMN”モードを指定する

キーから指を離すとモードスキャンがスタートする

バンクが指定されていれば、グループ内のモードスキャンがスタートする

“SKIP”が点灯しモードスキップスキャン動作となる

スイッチを押すとスキャンが解除する

6 スキャン操作

6-7 オートメモリーライトスキャンについて

プログラムスキャン用メモリーチャンネルの(P-0~P-9)グループに書き込まれている周波数範囲をスキャンし、信号を受信するたびに、その周波数を自動的にメモリーチャンネルの“800~899”へ順次書き込みます。

■オートメモリーライトスキャンの運用

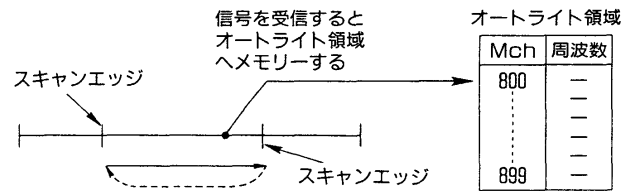
- ①前項「スキャンを運用する前に」にしたがって、スケッチ、VSC、スキャン再開条件などを設定します。
- ②キーボードの[SCAN]キーを押して、スキャン設定待ち受け状態にします。
- ③キーボードの[AUTO]キーを押すと、プログラムスキャンのグループ設定状態になります。
- ④[AUTO]キーを押しながらメインダイヤルを回して、グループの指定をします。
 - Scn: P-0~9 を指定した場合
メモリーチャンネル“800~899”のブランクチャンネルを探し、順次書き込んでいきます。
 - Scn: P-0~9 cL(クリア)を指定した場合
スタート時にメモリーチャンネル“800~899”に書き込まれている内容を消去し、800チャンネルから順次書き込んでいきます。
- ⑤[AUTO]キーから指を離すと、オートメモリーライトスキャンがスタートします。
スキャン動作中は、MHz桁、kHz桁のデシマルポイントが点滅して表示します。
- ⑥プログラムスキャン同様に、[SKIP]スイッチを押して、スキップ機能によるスキップスキャンを指定することができます。
- ⑦スキャンの解除は、MEMORY-CH[UP](STOP)スイッチを押してください。

- ※スキャン動作中にメインダイヤルでスキャンの方向を変更することができます。
- ※スキャン動作中にTS(チューニングステップ)を変更することができます。
- ※スキャン動作中にテンキーの(0~9)を押すことにより、プログラムスキャングループの変更をすることができます。
- ※スキャン動作中に電波型式を変更することができます。
- ※スキャン動作中にスキャンセットモードを呼び出し、その内容を変更することができます。

■ご注意

メモリーチャンネル“800~899”が満杯になると、オートメモリーライトスキャンは解除されます。

●オートメモリーライトスキャンの動作



■操作例(スキャングループ“P-5”の場合)

SCAN

スキャン設定待ち受け状態

Scn:

CE

AUTO

グループ設定状態

Scn:P-3

を押しながら

グループ番号“P-5”を指定する

Scn:P-5

信号を受信すると“800~899”のブランクチャンネルに書き込む

グループ番号“P-5 cL”を指定する

Scn:P-5 cL

“800~899”の内容を消去し、信号を受信するたびに“800~899”に書き込む

FMN [OFF DLY ∞]

156.000.0 800

点滅する

“SKIP”が点灯しオートメモリーライトスキップスキャンが動作する

FMN SKIP [OFF DLY ∞]

156.000.0 800

点滅する

CE

AUTO

キーから指を離すとオートメモリーライトスキャンがスタートする

SKIP

スイッチを押すとスキャンが解除する

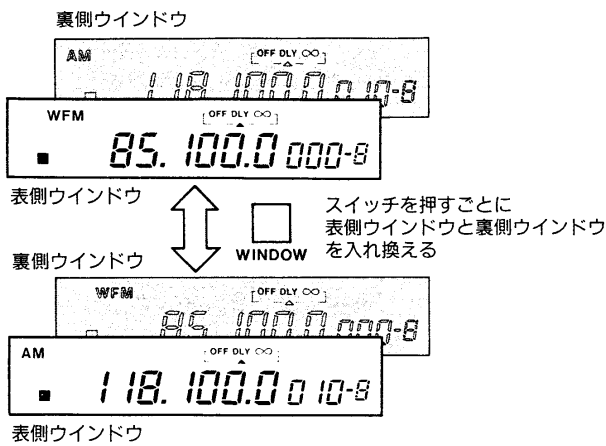
UP

STOP

6-8 WS(ウインドウ)スキャンについて

ウインドウ・スキャンは、コンピューターのウインドウ表示方式の概念を取り入れた、新しいスキャン方式です。現在表示している内容(表側ウインドウ)と別枠のもう一つの内容(裏側ウインドウ)を一定周期(デューティー比はスキャンセットモードで選択)で切り換えるものです。表側ウインドウと裏側ウインドウは、独立して各スキャンのスタート/ストップが可能となっていますから、2種類のスキャンを交互に行うことができます。なお、表側ウインドウと裏側ウインドウの入れ換えは、**WINDOW**スイッチで行います。

WINDOWスイッチの動作



ウインドウ・スキャンの運用

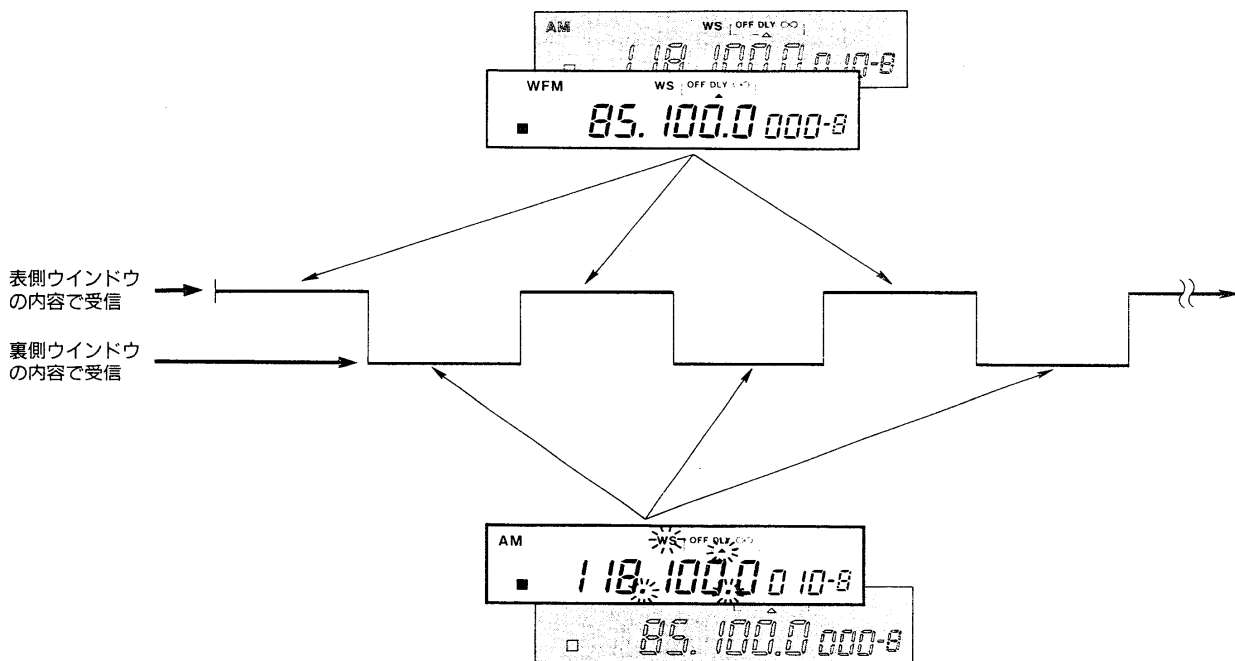
表側ウインドウの内容と、裏側ウインドウの内容を一定周期で切り換えて表示します。表側ウインドウと裏側ウインドウは、スキャンセットモードで設定したデューティー比で切り換わります。

- ①前項「スキャンを運用する前に」にしたがって、スケルチ、VSC、スキャンの再開条件などを設定します。
- ②キーボードの**[SCAN]**キーを押して、スキャン設定待ち受け状態にします。
- ③キーボードの**[WS]**キーを押すと、ウインドウ・スキャンがスタートします。
スキャン動作中は、裏側ウインドウをMHz桁、kHz桁のデシマルポイント、WS、▲(DELAY)表示を点滅させて区別しています。
- ④スキャンの解除は、MEMORY-CH **[DOWN]** (W-STOP)スイッチを押してください。

※スキャン動作中に下記の内容を変更することができません。

- スキャンセットモード
- VSC機能
- DELAY(スキャン再開条件)
- ウインドウの入れ換え
- 電波型式(表側ウインドウのみ)
- チューニングステップ(表側ウインドウのみ)
- 表側ウインドウ表示中は、MEMORY-CH **[UP]** **[DOWN]**スイッチ以外の操作はすべて可能です。
裏側ウインドウの諸機能を変更するときは、**WINDOW**スイッチでウインドウを入れ換えてください。

ウインドウ・スキャンの動作(スキャンセットモードでデューティー比2:2設定時)



6 スキャン操作

6-9 ウィンドウ・プログラムスキャンについて

表側ウィンドウの内容と裏側ウィンドウで指定するプログラムスキャンの周波数範囲を一定周期で切り換えて表示します。

表側ウィンドウと裏側ウィンドウは、スキャンセットモードで設定したデューティー比で切り換わります。

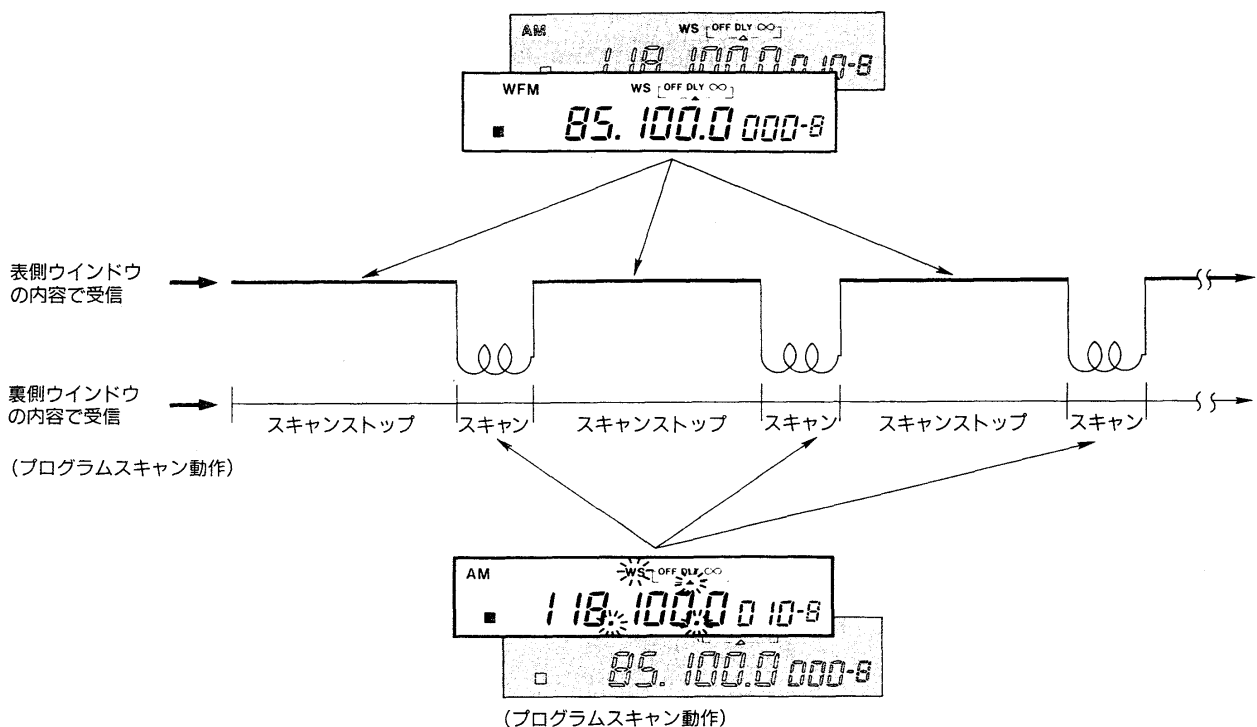
■ウィンドウ・プログラムスキャンの運用

- ①前項「スキャンを運用する前に」にしたがって、スケルチ、VSC、スキャン再開条件などを設定します。
- ②キーボードの[SCAN]キーを押して、スキャン設定待ち受け状態にします。
- ③キーボードの[W-PR]キーを押すと、プログラムスキャンのグループ設定状態になります。
- ④[W-PR]キーを押しながらメインダイヤルを回して、グループの指定をします。
- ⑤[W-PR]キーから指を離すと、ウィンドウ・プログラムスキャンがスタートします。
スキャン動作中は、裏側ウィンドウをMHz桁、kHz桁のデシマルポイント、WS、▲(DELAY)を点滅させて区別しています。
- ⑥スキャンの解除は、MEMORY-CH[DOWN] (W-STOP)スイッチを押してください。

※スキャン動作中に下記の内容を変更することができません。

- スキャンセットモード
- VSC機能
- SKIP機能
- ウィンドウの入れ換え
- 電波型式(表側ウィンドウのみ)
- チューニングステップ(表側ウィンドウのみ)
- 表側ウィンドウ表示中は、MEMORY-CH[UP][DOWN]スイッチ以外の操作はすべて可能です。
裏側ウィンドウの諸機能を変更するときは、WINDOWスイッチでウィンドウを入れ換えてください。

■ウィンドウ・プログラムスキャンの動作(スキャンセットモードでデューティー比3:1設定時)



6-10 ウィンドウ・メモリスキャンについて

表側ウィンドウの内容と裏側ウィンドウで指定するメモリスキャンを一定周期で切り換えて表示します。通常のメモリスキャン同様にバンクを指定してグループ内をスキャンさせることもできます。表側ウィンドウと裏側ウィンドウは、スキャンセットモードで設定したデューティー比で切り換わります。

■ウィンドウ・メモリスキャンの運用

- ①前項「スキャンを運用する前に」にしたがって、スケッチ、VSC、スキャン再開条件などを設定します。
- ②キーボードの[SCAN]キーを押して、スキャン設定待ち受け状態にします。
- ③キーボードの[W-ME]キーを押すと、メモリスキャンの設定状態になります。
- ④[W-ME]キーを押しながらメインダイヤルを回して、メモリスキャンまたはセレクトメモリスキャンを指定します。
 - Scn：S-AL(オール)を指定した場合
オールスキャンとなり書き込まれているすべてのメモリーチャンネルをスキャンします。
 - Scn：S-0～9を指定した場合
セレクトメモリスキャンとなり、同一のセレクトNoが指定されているメモリーチャンネルだけをスキャンします。

⑤[W-ME]キーから指を離すと、指定されたメモリスキャンがスタートします。

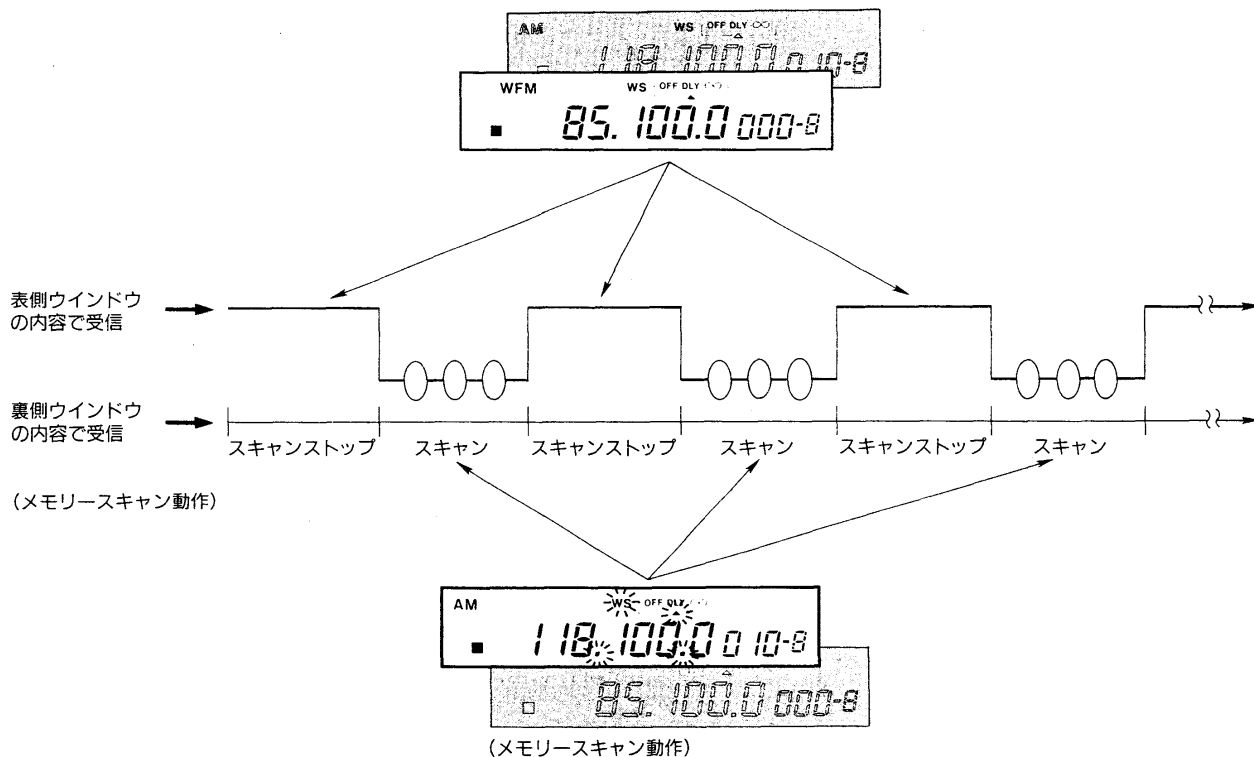
スキャン動作中は、裏側ウィンドウをMHz桁、kHz桁のデシマルポイント、WS、▲(DELAY)を点滅させて区別しています。

⑥スキャンの解除は、MEMORY-CH[DOWN](W-STOP)スイッチを押してください。

※スキャン動作中に下記の動作を変更することができません。

- スキャンセットモードの内容
- VSC機能
- SKIP機能
- DELAY(スキャンの再開条件)
- ウィンドウの入れ換え
- 電波型式(表側ウィンドウのみ)
- 表側ウィンドウ表示中は、MEMORY-CH[UP][DOWN]スイッチ以外の操作はすべて可能です。裏側ウィンドウの諸機能を変更するときは、WINDOWスイッチでウィンドウを入れ換えてください。

■ウィンドウ・メモリスキャンの動作(スキャンセットモードでデューティー比2：2設定時)



6 スキャン操作

6-11 ウィンドウ・モードスキャンについて

表側ウィンドウの内容と裏側ウィンドウで指定するモードスキャンを一定周期で切り換えて表示します。通常のモードスキャン同様にバンクを指定してグループ内をスキャンさせることもできます。表側ウィンドウと裏側ウィンドウは、スキャンセットモードで設定したデューティー比で切り換わります。

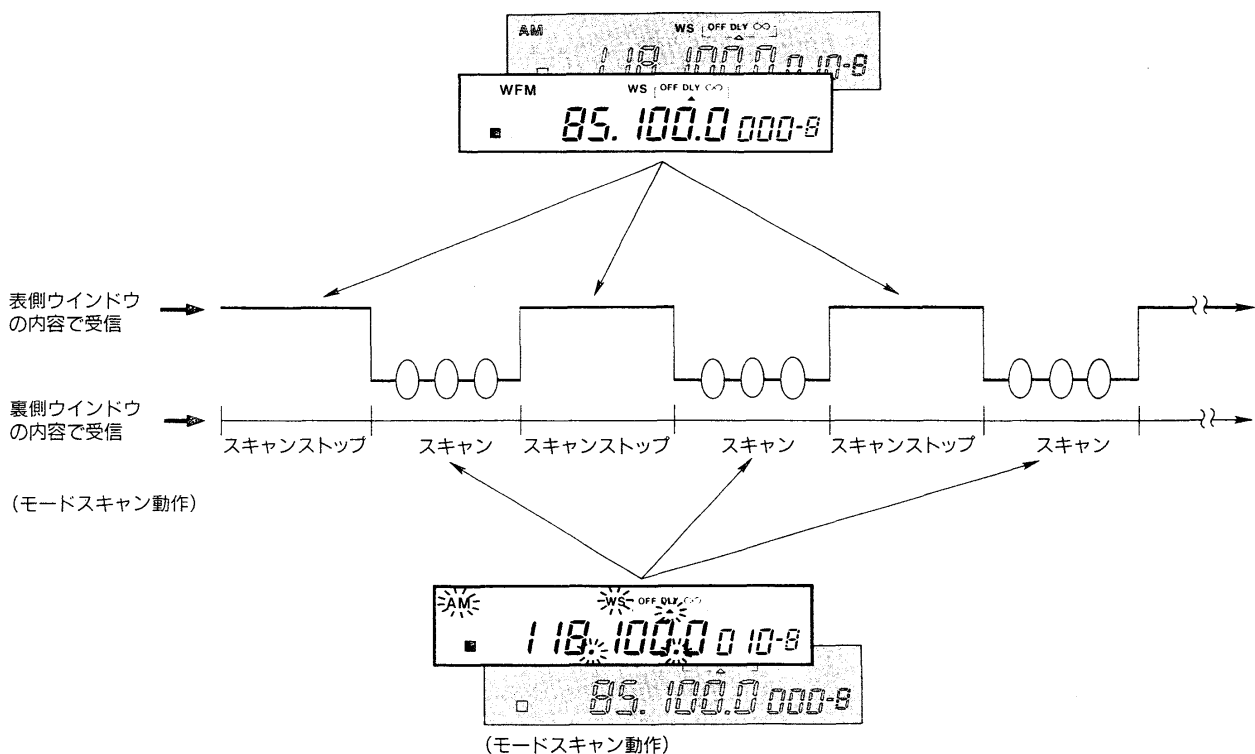
■ウィンドウ・モードスキャンの運用

- ①前項「スキャンを運用する前に」にしたがって、スケルチ、VSC、スキャン再開条件などを設定します。
- ②キーボードの **[SCAN]** キーを押して、スキャン設定待ち受け状態にします。
- ③キーボードの **[W-MO]** キーを押すと、電波型式設定状態になります。
- ④ **[W-MO]** キーを押しながら、MODEスイッチで電波型式を指定します。
- ⑤ **[W-MO]** キーから指を離すと、ウィンドウ・モードスキャンがスタートします。
スキャン動作中は、裏側ウィンドウをMHz桁、kHz桁のデシマルポイント、WS、▲(DELAY)、MODE(電波型式)を点滅させて区別しています。
- ⑥スキャンの解除は、MEMORY-CH **[DOWN]** (W-STOP) スイッチを押してください。

※スキャン動作中に下記の動作を変更することができません。

- スキャンセットモードの内容
- VSC機能
- SKIP機能
- DELAY(スキャンの再開条件)
- ウィンドウの入れ換え
- 電波型式(表側ウィンドウのみ)
- チューニングステップ(表側ウィンドウのみ)
- 表側ウィンドウ表示中は、MEMORY-CH **[UP]** **[DOWN]** スイッチ以外の操作はすべて可能です。
裏側ウィンドウの諸機能を変更するときは、**[WINDOW]** スイッチでウィンドウを入れ換えてください。

■ウィンドウ・モードスキャンの動作(スキャンセットモードでデューティー比2:2設定時)



6-12 ウィンドウ・オートメモリーライト スキャンについて

表側ウィンドウの内容と裏側ウィンドウで指定するオートメモリーライトスキャンを一定周期で切り換えて表示します。

表側ウィンドウと裏側ウィンドウは、スキャンセットモードで設定したデューティー比で切り換わります。

■ウィンドウ・オートメモリーライトスキャンの運用

- ①前項「スキャンを運用する前に」にしたがって、スケルチ、VSC、スキャン再開条件などを設定します。
- ②キーボードの[SCAN]キーを押して、スキャン設定待ち受け状態にします。
- ③キーボードの[W-AU]キーを押すと、プログラムスキャンのグループ設定状態になります。
- ④[W-AU]キーを押しながら、メインダイヤルを回して、グループの指定をします。
 - Scn：P-0～9を指定した場合
メモリーチャンネル“800～899”のブランクチャンネルを探し、順次書き込んでいきます。
 - Scn：P-0～9 cL(クリア)を指定した場合
スタート時にメモリーチャンネル“800～899”に書き込まれている内容を消去し、800チャンネルから順次書き込んでいきます。

⑤[W-AU]キーから指を離すと、ウィンドウ・オートメモリーライトスキャンがスタートします。

スキャン動作中は、裏側ウィンドウをMHz桁、kHz桁のデシマルポイント、WS、▲(DELAY)を点滅させて区別しています。

⑥スキャンの解除は、MEMORY-CH[DOWN](W-STOP)スイッチを押してください。

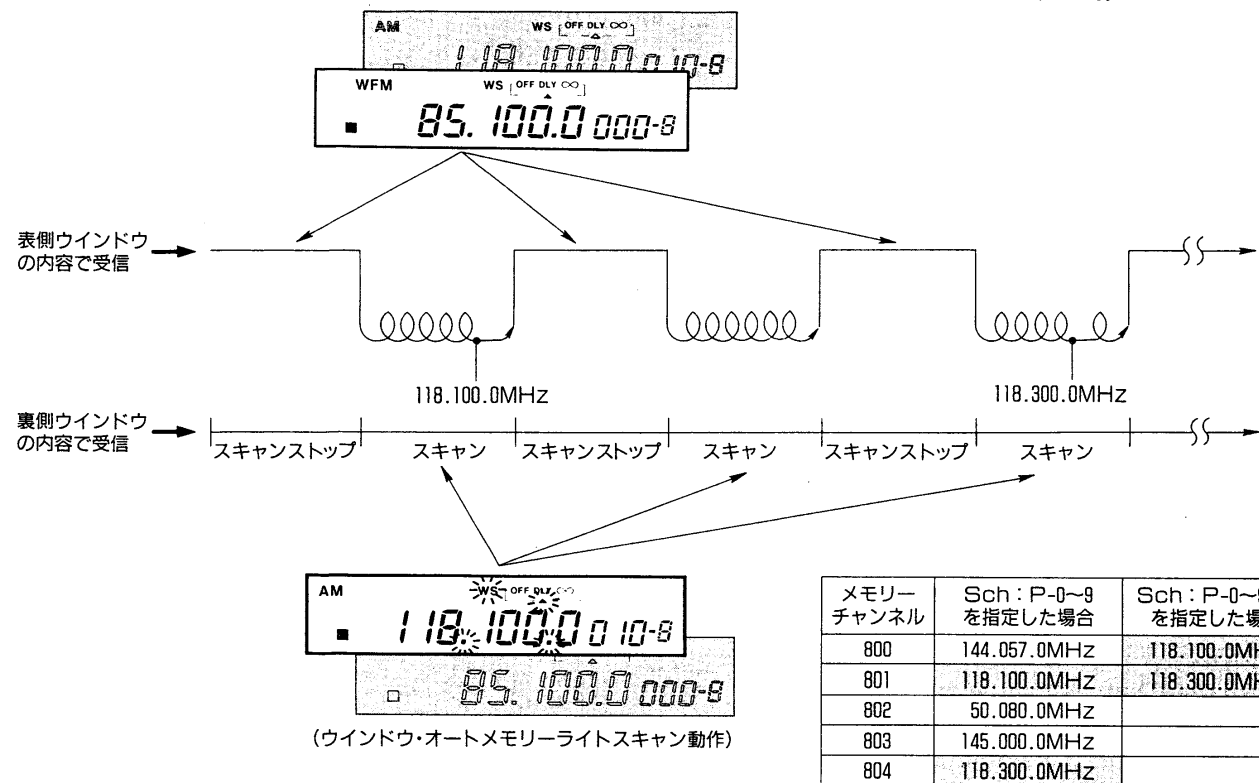
※スキャン動作中に下記の動作を変更することができません。

- スキャンセットモードの内容
- VSC機能
- SKIP機能
- DELAY(スキャンの再開条件)
- ウィンドウの入れ換え
- 電波型式(表側ウィンドウのみ)
- 表側ウィンドウ表示中は、MEMORY-CH[UP][DOWN]スイッチ以外の操作はすべて可能です。
裏側ウィンドウの諸機能を変更するときは、[WINDOW]スイッチでウィンドウを入れ換えてください。

■ご注意

- オートライト領域のメモリーチャンネル“800～899”が満杯になるとピープ音が鳴り、ウィンドウ・メモリーライトスキャンを解除し、ウィンドウ・スキャンに切り換わります。

■ウィンドウ・オートメモリーライトスキャンの動作(スキャンセットモードでデューティー比2：2設定時)



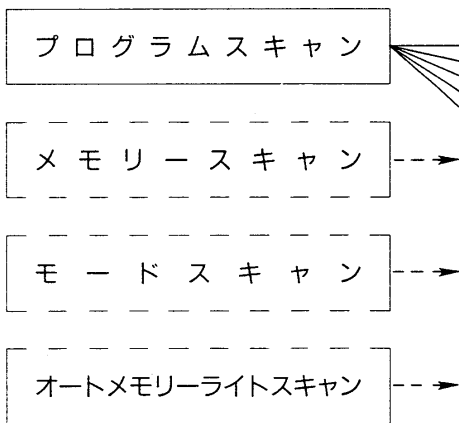
6 スキャン操作

6-13 デュアルスキャンについて

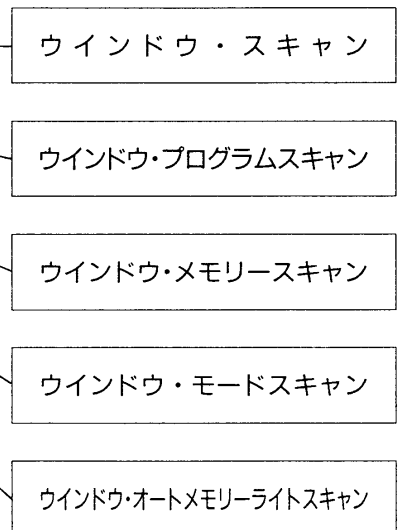
ウインドウ・スキャンは、表側ウインドウと裏側ウインドウを独立して、各スキャンのスタート/ストップが可能となっていますから、通常のスキャン(4タイプ)とウインドウ・スキャン(5タイプ)を組み合わせると20タイプのデュアルスキャンを行うことができます。

■デュアルスキャンの動作

●通常のスキャン群(表側)



●ウインドウ・スキャン群(裏側)



例えばオートメモリーライトスキャンで新局を探しながら、ウインドウ・メモリスキャンですでにメモリーしている局を受信することができます。

1. オートメモリーライトスキャン+ウインドウ・メモリスキャンの運用

(1) オートメモリーライトスキャンのスタート

- ① キーボードの[SCAN]キーを押します。
- ② キーボードの[AUTO]キーを押しながら、メインダイヤルでプログラマースキャングループの指定をします。
- ③ [AUTO]キーから指を離すと、オートメモリーライトスキャンがスタートします。

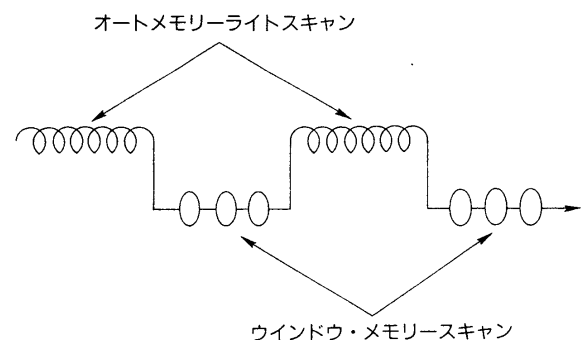
(2) ウインドウ・メモリスキャンのスタート

- ① キーボードの[SCAN]キーを押します。
- ② キーボードの[W-ME]キーを押しながら、メインダイヤルで、メモリスキャンまたはセレクトメモリスキャンの指定をします。
- ③ [W-ME]キーから指を離すと、ウインドウ・メモリスキャンがスタートします。

(3) スキャンの解除

- ① 通常のスキャンは、MEMORY-CH[UP] (STOP) スイッチで行います。
- ② ウインドウ・スキャンは、MEMORY-CH[DOWN] (W-STOP) スイッチで行います。

■オートメモリーライトスキャン+ウインドウ・メモリスキャンの動作



- 指定した周波数範囲をオートメモリーライトスキャンで、受信した局をオートライト領域に書き込みながら、メモリーチャンネルに記憶している局と交互に受信します。

2. プログラムスキャン+ウインドウ・プログラムスキャンの運用

(1) プログラムスキャンのスタート

- ① キーボードの **[SCAN]** キーを押します。
- ② キーボードの **[PROG]** キーを押しながら、メインダイヤルでプログラムスキャングループの指定をします。
- ③ **[PROG]** キーから指を離すと、プログラムスキャンがスタートします。

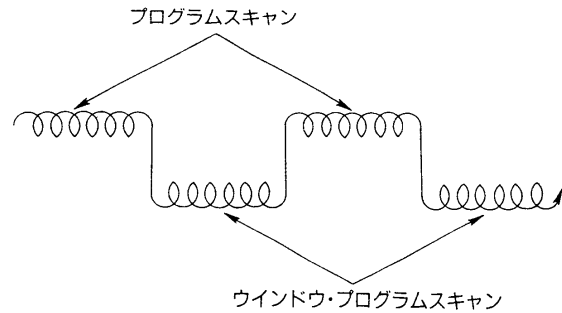
(2) ウインドウ・プログラムスキャンのスタート

- ① キーボードの **[SCAN]** キーを押します。
- ② キーボードの **[W-PR]** キーを押しながら、メインダイヤルでプログラムスキャングループの指定をします。
- ③ **[W-PR]** キーから指を離すと、ウインドウ・プログラムスキャンがスタートします。

(3) スキャンの解除

- ① 通常のスキャンは、MEMORY-CH **[UP]** (STOP) スイッチで行います。
- ② ウインドウ・スキャンは、MEMORY-CH **[DOWN]** (W-STOP) で行います。

■ プログラムスキャン+ウインドウ・プログラムスキャンの動作



- 指定した2組の周波数範囲を交互にスキャンしながら、それぞれ違う周波数帯を受信します。また、同一周波数帯も可能です。

3. メモリスキャン+ウインドウ・スキャンの運用

(1) メモリスキャンのスタート

- ① キーボードの **[SCAN]** キーを押します。
- ② キーボードの **[MEMO]** キーを押しながら、メインダイヤルで、メモリスキャンまたはセレクトメモリスキャンの指定をします。
- ③ **[MEMO]** キーから指を離すと、メモリスキャンがスタートします。

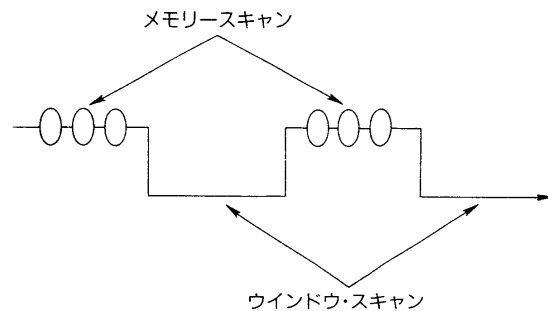
(2) ウインドウ・スキャンのスタート

- ① キーボードの **[SCAN]** キーを押します。
- ② キーボードの **[WS]** キーを押すと、ウインドウ・スキャンがスタートします。

(3) スキャンの解除

- ① 通常のスキャンは、MEMORY-CH **[UP]** (STOP) スイッチで行います。
- ② ウインドウ・スキャンは、MEMORY-CH **[DOWN]** (W-STOP) で行います。

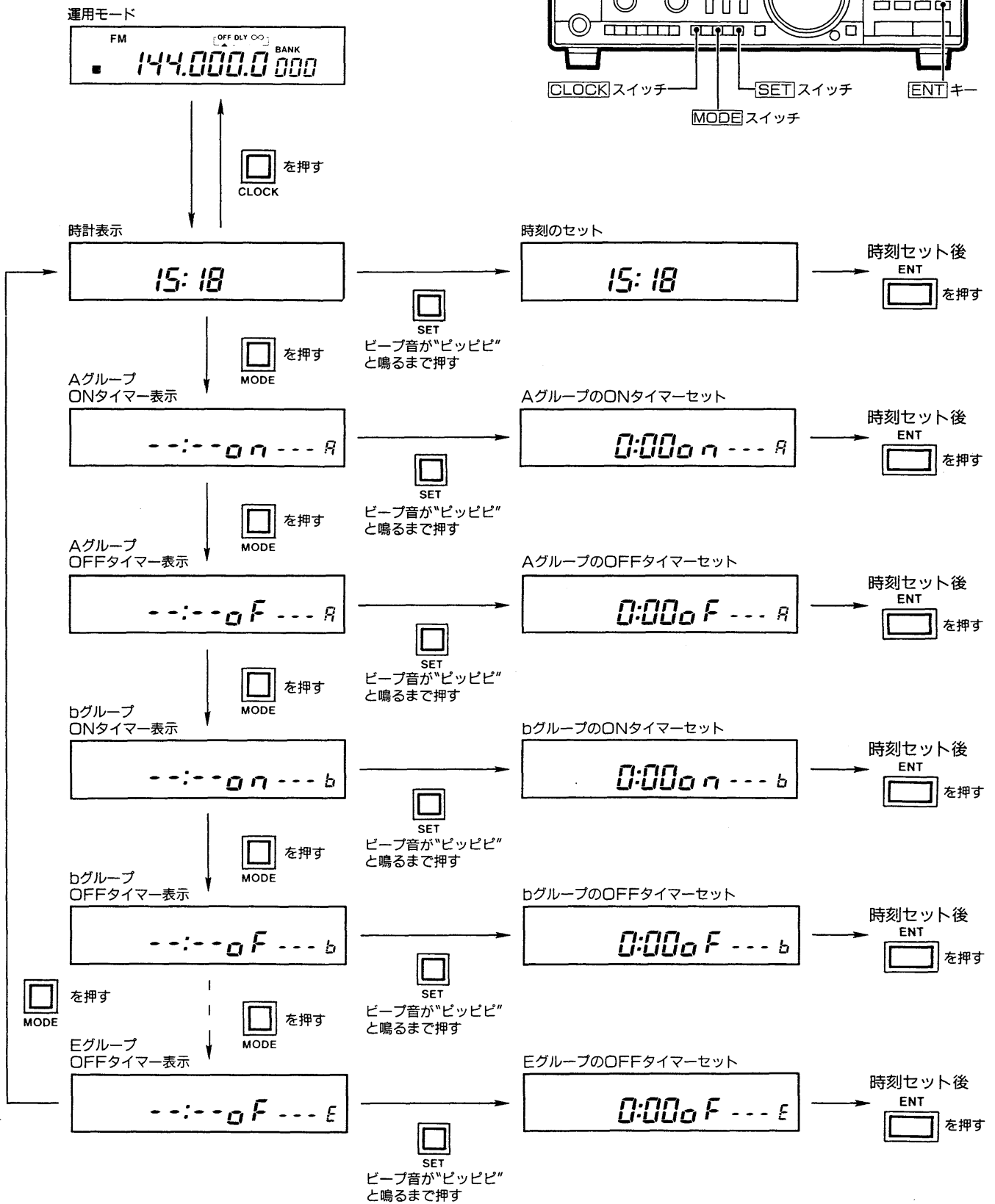
■ メモリスキャン+ウインドウ・スキャンの動作



- メモリーチャンネルに記憶している局をスキャンしながら、特定局と交互に受信します。

7-1 時計モードについて

■時計モードの流れ



7-2 時刻のセット方法

本機を初めてお使いになるとき、または時刻が合っていない場合は、次の方法で時刻をセットすることができます。

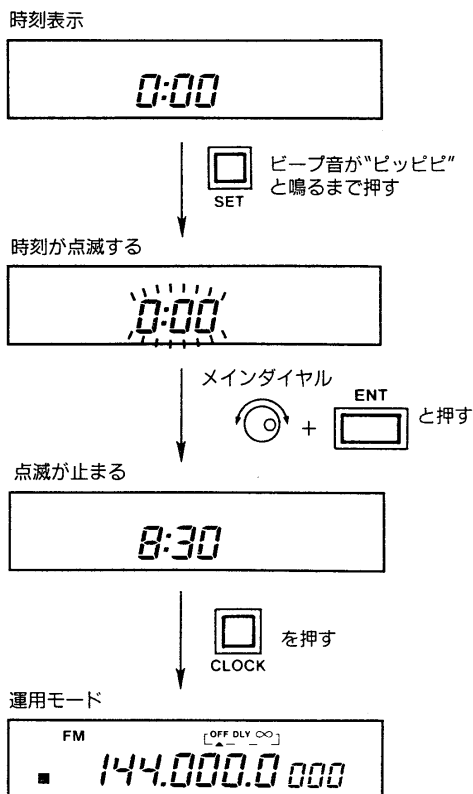
ON/OFFタイマーは、1日の24時間を“A～E(5グループ)”に分けて設定することができます。

なお、時刻は24時間表示で、時計誤差は1週間に約±1分の範囲です。

1. メインダイヤルによるセット

- ① [TIMER] スイッチをOFFにします。
- ② [CLOCK] スイッチを押して、時計表示にします。
- ③ [SET] スイッチをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、時刻が点滅します。
- ④ メインダイヤルを回して、時刻をセットします。
- ⑤ キーボードの [ENT] キーを押すと、点滅が止まり時刻がセットされます。
- ⑥ [CLOCK] スイッチを押すと、運用モードに戻ります。

■メインダイヤルによるセット



2. テンキーによるセット

- ① [TIMER] スイッチをOFFにします。
- ② [CLOCK] スイッチを押して、時計表示にします。
- ③ [SET] スイッチをビープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、時刻が点滅します。
- ④ テンキーで、時刻をセットします。

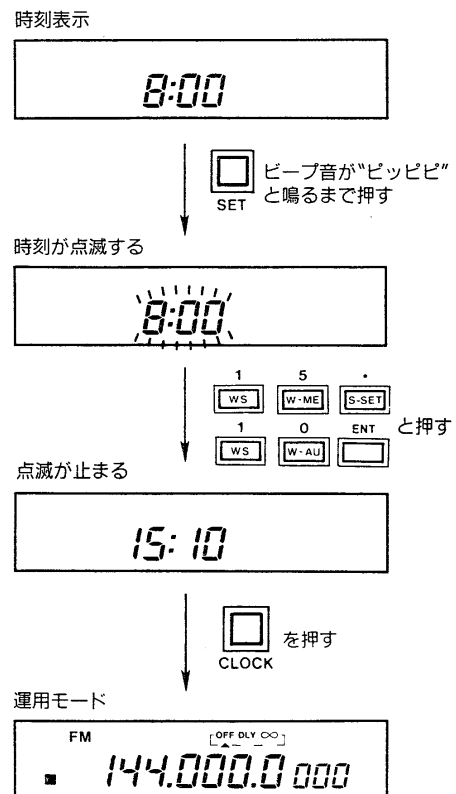
●セット例

- 0時30分：[0] [.] [3] [0] [ENT] と押す
- 6時15分：[6] [.] [1] [5] [ENT] と押す
- 11時50分：[1] [1] [.] [5] [0] [ENT] と押す
- 15時00分：[1] [5] [.] [0] [0] [ENT] と押す
- 23時45分：[2] [3] [.] [4] [5] [ENT] と押す

※時刻の数値を押し間違えたときは、[CE] (クリア) キーを押して、再入力してください。

- ⑤ [CLOCK] スイッチを押すと、運用モードに戻ります。

■テンキーによるセット



7 時計およびタイマー操作

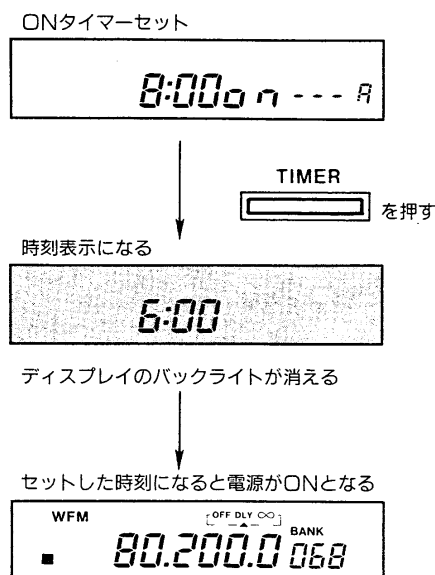
7-3 タイマー時刻のセット方法

1. ONタイマーのセット

ONタイマーは、本機を希望の時刻に電源をONにすることができます。

- ①[TIMER]スイッチをOFFにします。
- ②[CLOCK]スイッチを押して、時計表示にします。
- ③[MODE]スイッチを押して、AグループのONタイマー表示を選択します。
- ④[SET]スイッチをピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、時刻が点滅します。
- ⑤時刻が点滅時、キーボードの[Mch]キーを押しながら、メインダイヤルでメモリーチャンネルをセットすることができます。
メモリーチャンネルをセットすることにより、タイマー動作時にその内容で受信します。
- ⑥前項「時刻のセット方法」にしたがって、メインダイヤルまたはテンキーで時刻をセットします。
- ⑦キーボードの[ENT]キーを押すと、点滅が止まり時刻がセットされます。
- ⑧[TIMER]スイッチをONにすると、ディスプレイのバックライトが消え、時刻表示になります。
- ⑨セットした時刻になると、電源がONとなり、運用周波数表示に戻ります。

■ONタイマー動作



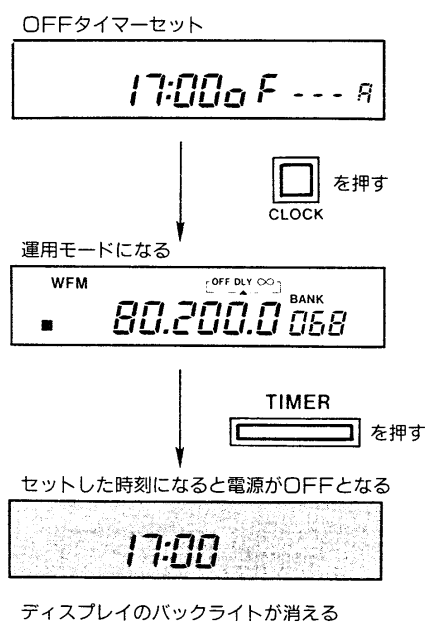
2. OFFタイマーのセット

OFFタイマーは、本機を希望の時刻に電源をOFFにすることができます。

- ①[TIMER]スイッチをOFFにします。
- ②[CLOCK]スイッチを押して、時計表示にします。
- ③[MODE]スイッチを押して、AグループのOFFタイマー表示を選択します。
- ④[SET]スイッチをピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで押すと、時刻が点滅します。
- ⑤前項「時刻のセット方法」にしたがって、メインダイヤルまたはテンキーで時刻をセットします。
- ⑥キーボードの[ENT]キーを押すと、点滅が止まり時刻がセットされます。
- ⑦[CLOCK]スイッチを押して、運用モードに戻します。
- ⑧[TIMER]スイッチをONにします。
- ⑨セットした時刻になると、ピープ音が5回なり、電源がOFFになります。このとき同時にディスプレイのバックライトが消え、時刻表示になります。

※ON/OFFタイマーのセットにしたがって、残りのb～EグループにON/OFFタイマー時刻をセットしてください。

■OFFタイマー動作



■AグループのONタイマーに8時00分、OFFタイマーに17時00分のセット例

運用モード



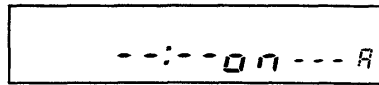
CLOCK を押す

時計表示



MODE を押す

Aグループ ONタイマー表示



SET ビープ音が“ピッピビ”と鳴るまで押す

Aグループ ONタイマーセット表示



Mch を押す

周波数表示に戻り、メモリーチャンネルが点滅する



Mch キーを押しながら、メインダイヤルでメモリーチャンネルをセットする

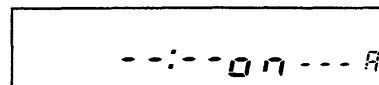
Aグループ ON時刻セット

8 0 0 ENT と押す



SET を押す

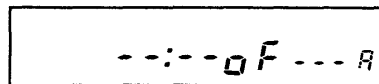
AグループONタイマー無効表示



SET スイッチをワンタッチ操作することにより、タイマー時刻の有効と無効の切り換え動作となる

Aグループ OFFタイマー表示

MODE を押す



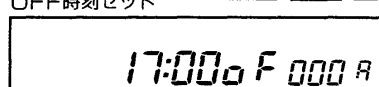
SET ビープ音が“ピッピビ”と鳴るまで押す

Aグループ OFFタイマーセット表示



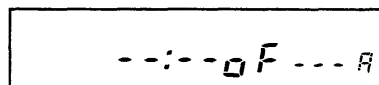
Aグループ OFF時刻セット

1 7 0 0 ENT と押す



SET を押す

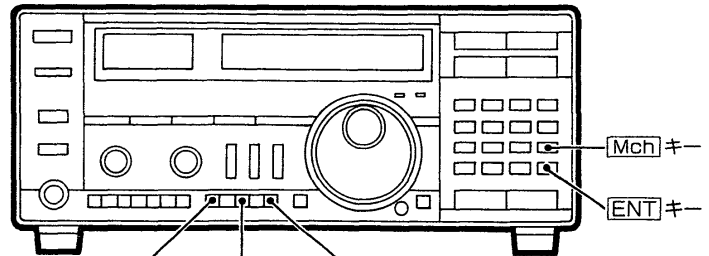
AグループOFFタイマー無効表示



SET スイッチをワンタッチ操作することにより、タイマー時刻の有効と無効の切り換え動作となる

CLOCK を押す

運用モード



CLOCK スイッチ MODE スイッチ SET スイッチ

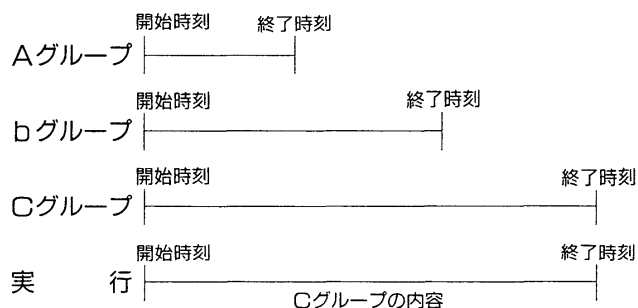
7 時計およびタイマー操作

7-4 タイマー動作

1.ON/OFFタイマーの動作

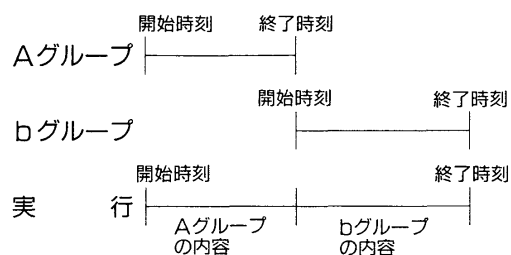
ON時刻とOFF時刻の内容に応じて、タイマー動作は次のように実行します。

①グループのON時刻が同一で、OFF時刻が違う場合



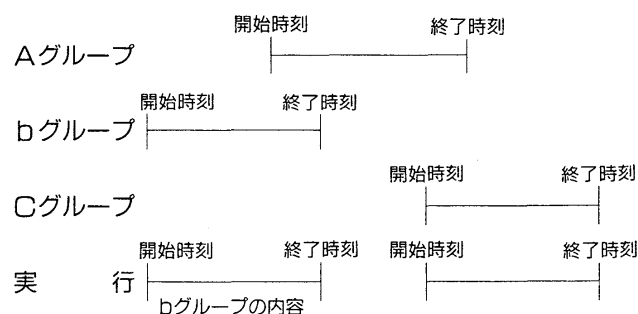
※OFF時刻の遅い方を優先して実行します。

②グループのOFF時刻とON時刻が同一の場合



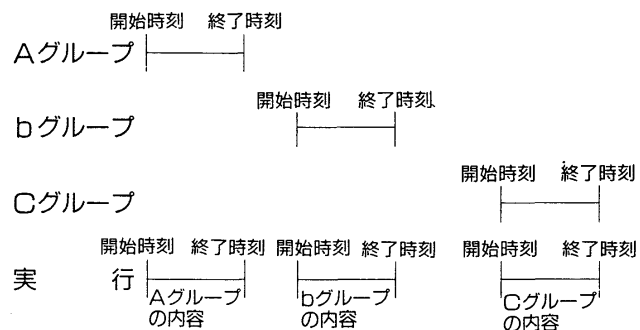
※2つのグループが自動的に切り換わり実行します。

③グループのON時刻とOFF時刻が重なっている場合



※ON時刻の早い方とOFF時刻の遅い方で実行します。

④グループのON時刻とOFF時刻が違う場合



※それぞれのグループで実行されます。

8-1 調整についてのご注意

本機は厳重な管理のもとで生産・調整されていますので、操作上必要のない半固定ボリュームやコイルのコア、トリマーなどに触れないでください。

むやみに触れますと故障の原因になる場合がありますのでご注意ください。

1. ビープ音（電子音）のプリセット

スイッチ操作時のビープ音を有効(ON)にするか、無効(OFF)にするかを指定することができます。

- ①電源を一旦OFFにします
- ②テンキー□(ポイント)キーと[ENT](エンター)キーを同時に押しながら、電源をONにします。
- ③以上の操作でビープ音が無効となり、スイッチの操作を行ってもビープ音は出力されません。
- ④ビープ音を有効(ON)にするときは、再度同じ操作を行ってください。

■ビープ音（音量）のプリセット

スイッチ操作を確認できるビープ音の音量をプリセットすることができます。

ビープ音のプリセットを行うときは、MAINユニットのR101で調整します。

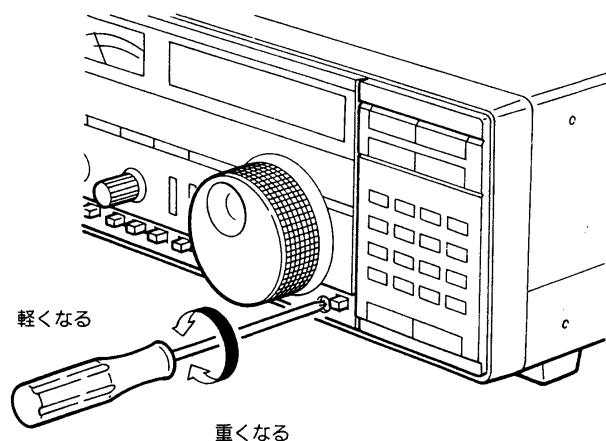
R101の位置は、内部について(→P48)をご覧ください。

2. メインダイヤルのブレーキ調整

メインダイヤルを回転させるときのトルク(重さ)を調整できます。

前面パネルのブレーキ調整ネジを時計方向に回すと重くなり、逆に回すと軽くなります。

チューニングしやすい重さに合わせてご使用ください。



8-2 保守について

1. セットの清掃

本機にほこりや汚れなどが付着した場合は、乾いたやわらかい布でふいてください。

特にシンナーやベンジンなどの有機溶剤を用いますと、塗装がはげたりしますので、絶対に使用しないでください。

2. リセットについて

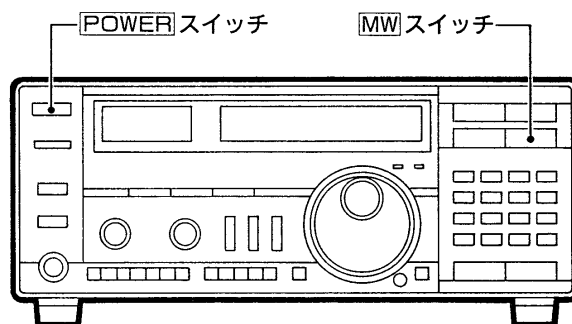
本機に電源を投入したとき、または運用中にCPUの誤動作や静電気などの外部要因で、ディスプレイの表示内容が異常になった場合は、一旦電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。

それでも異常があれば、次のようにリセット操作を行ってください。

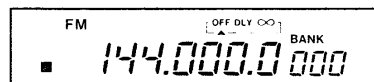
- ①電源を一旦OFFにします。
- ②[MW]スイッチを押しながら、電源をONにします。

※リセット操作を行った場合は、すべての操作モードが初期設定値に戻り、メモリーチャンネルの内容が消去されますのでご注意ください。

運用に必要な情報を再度セットして、ご使用ください。



リセット後の表示



8 調整と保守

3. ヒューズの交換

ヒューズが切れ、本機が動作しなくなった場合は、原因を取り除いた上で、定格のヒューズと交換してください。

ご注意

本機のカバーを開ける時は、感電の恐れがありますので、必ずACまたはDC電源コードを取り外してください。

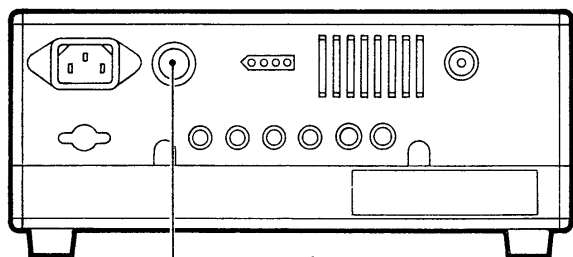
■ACヒューズの交換

ACヒューズは、後面パネルのFUSEホルダーの中であり、定格は1Aとなっています。

■内部DCヒューズの交換

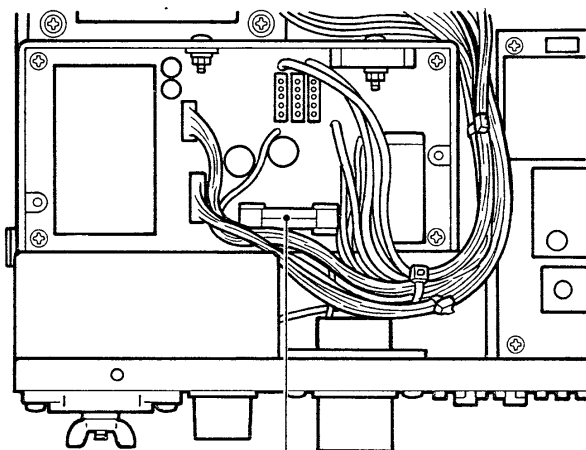
内部DCヒューズは、上カバー側のREGユニットにあり、定格は2Aとなっています。

●ACヒューズホルダー (後面パネル)



ACヒューズホルダー

●DCヒューズ (REGユニット)



DCヒューズ

4. リチウム電池の消耗について

本機のRAMおよび時計機能をバックアップするため、2個のリチウム電池を使用しています。

リチウム電池の寿命はRAM用が約5年、時計用が約2年となっています。

なお、寿命は運用状態、その他の要因で異なることがあります。

RAM用リチウム電池の容量が消耗すると、RAMのメモリーが消えるため、メモリーチャンネルに書き込んでいた内容が消去されます。

ただし、周波数や電波型式をそのつど書き込めば使用できます。

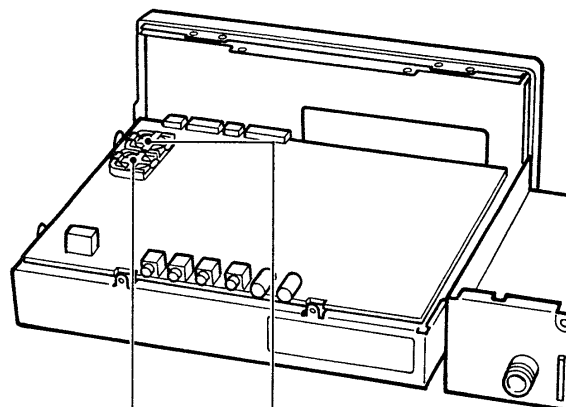
時計用リチウム電池の容量が消耗すると、現在時刻表示、ONタイマー表示、OFFタイマー表示が“0:00”となり、時計機能が動作しなくなります。

※RAM用および時計用リチウム電池の交換は、お買い上げいただいた販売店、または最寄りの弊社営業所サービス係に申し付けください。

(リチウム電池：CR2032)

リチウム電池の交換を行ったときは、必ずリセット操作(※P45)を行ってください。

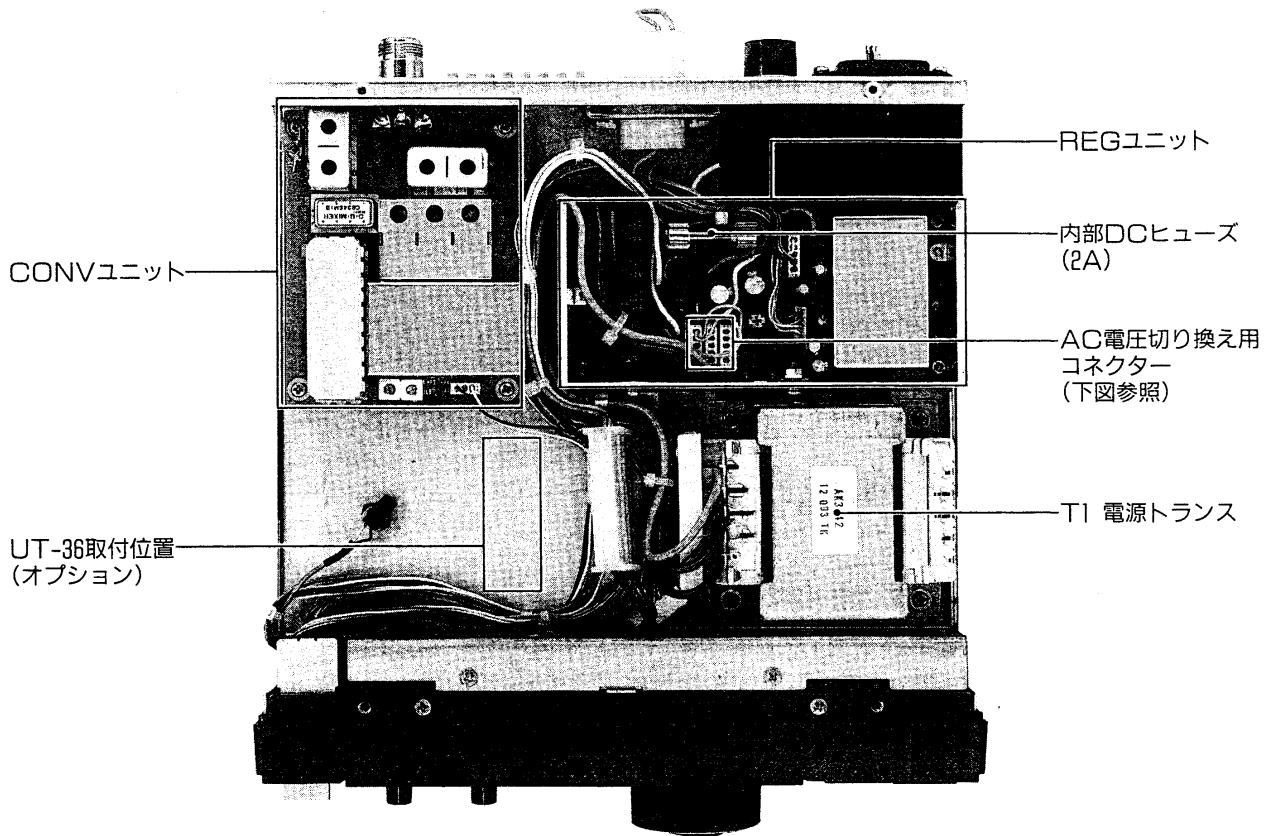
●リチウム電池 (MAINユニット)



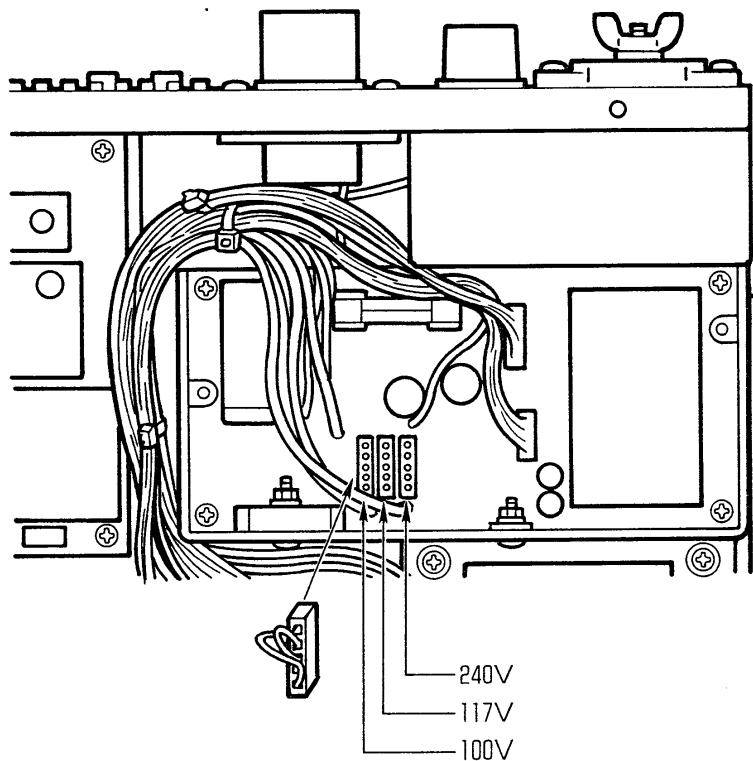
メモリー用リチウム電池

時計用リチウム電池

■REGユニット (上カバー側)

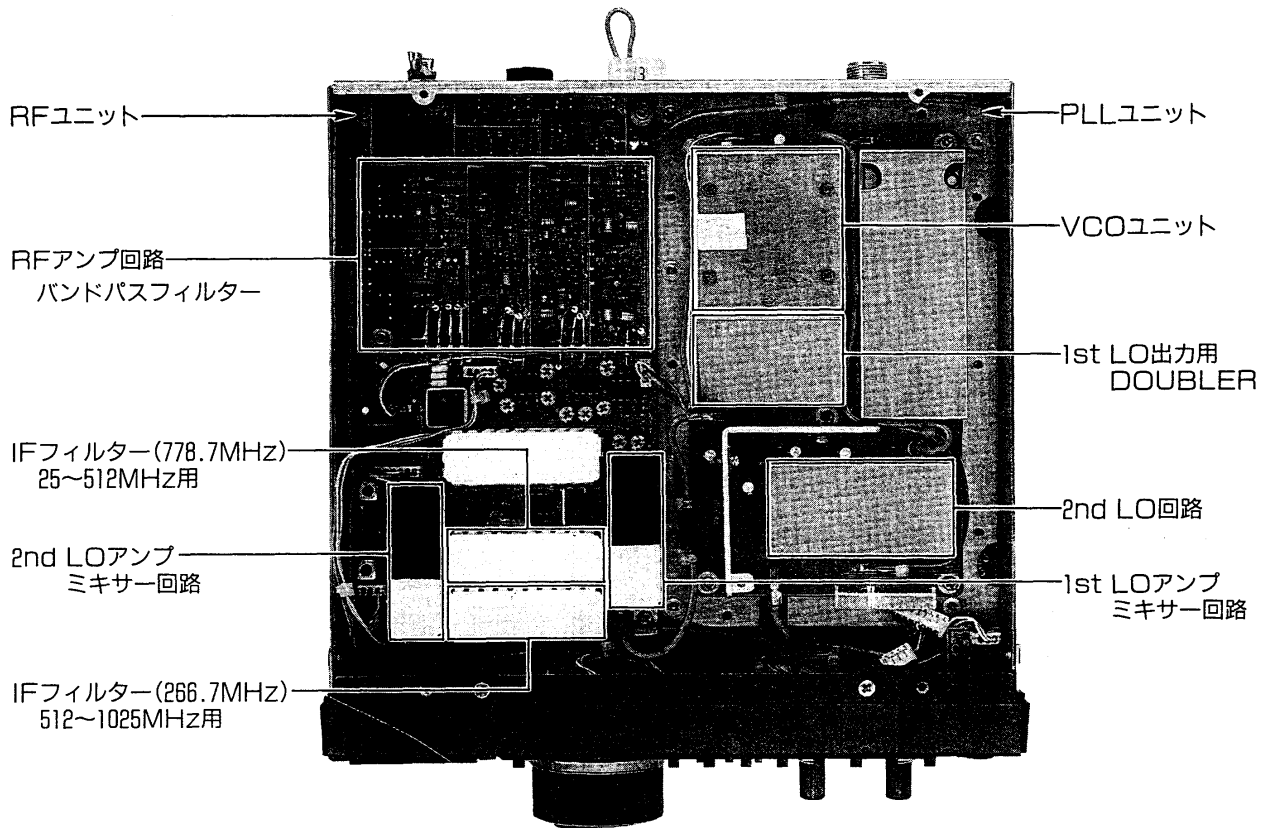


■REGユニット (AC電圧切り換え)

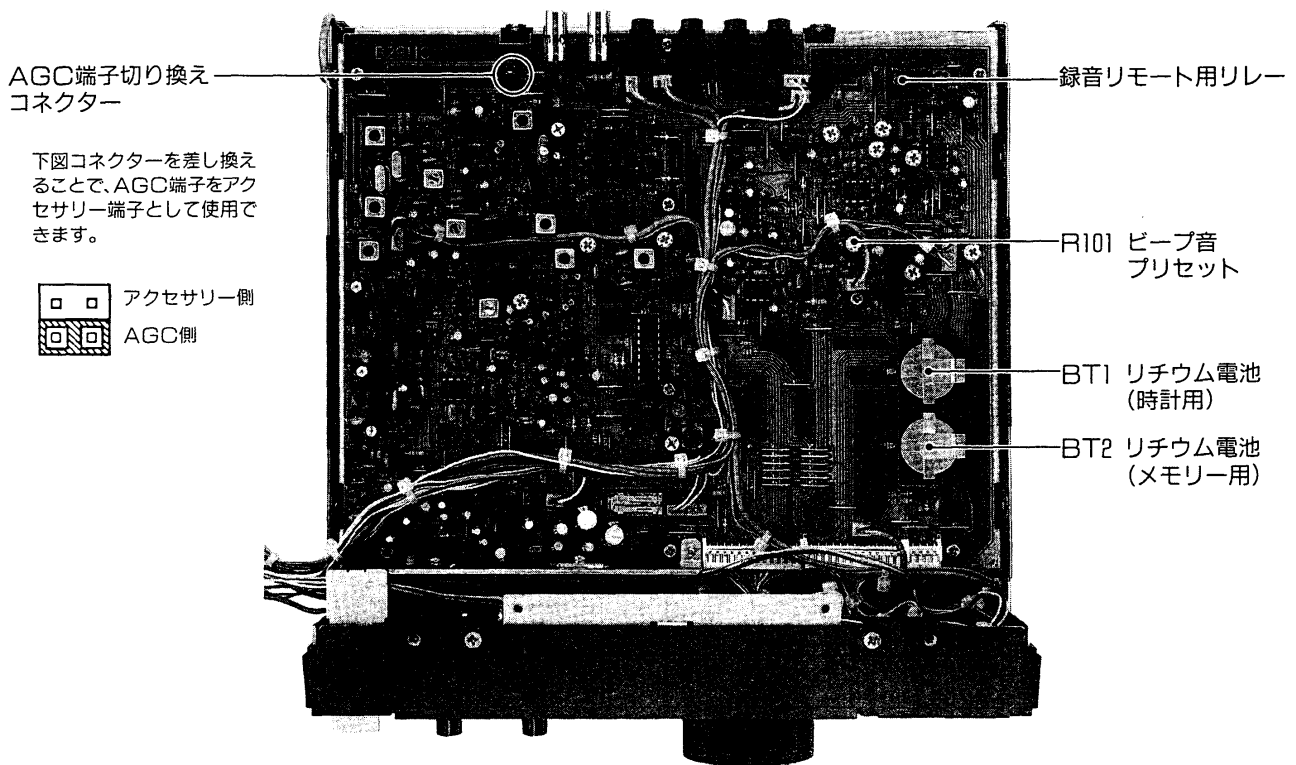


9 内部について

■RF、PLLユニット (下カバー側)



■MAINユニット



10-1 分解手順

本機のカバーを取り外す場合は、**POWER**スイッチをOFFにして、本機に接続されているACまたはDCコードおよび他の接続コードは必ず外して作業を行ってください。

1. 上下カバーの取り外し

上下カバーを取り付けている12本のネジを外します。
(図1)

注. 上カバーを取り外すとき、スピーカーの接続コードを切らないように注意してください。

2. REGシャーシの取り外し

REGシャーシを取り付けている4本のネジを外します。
(図2)

このとき、REGユニット側で固定されている線材をハンガーから外し、REGユニットを取り外します。
(図3、図4)

■上下カバーの外しかた

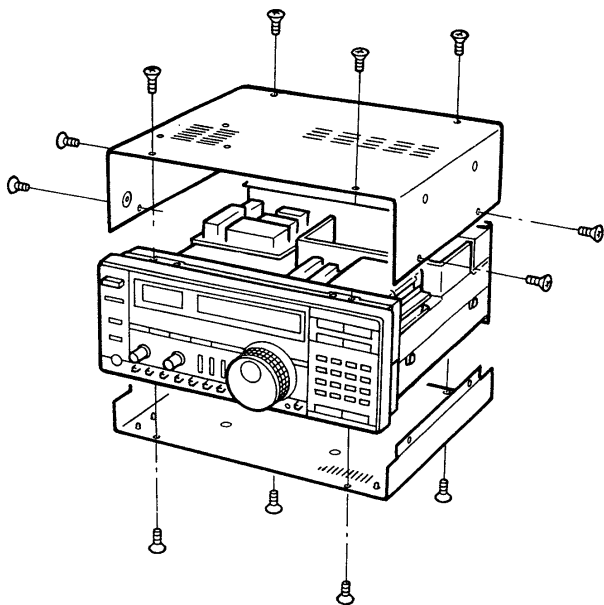


図1

■REGユニットの外しかた

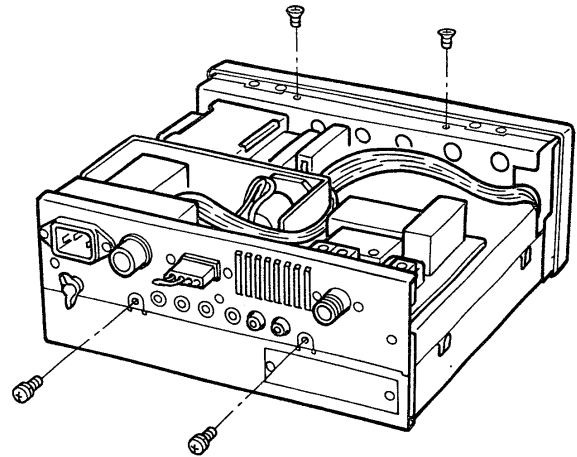
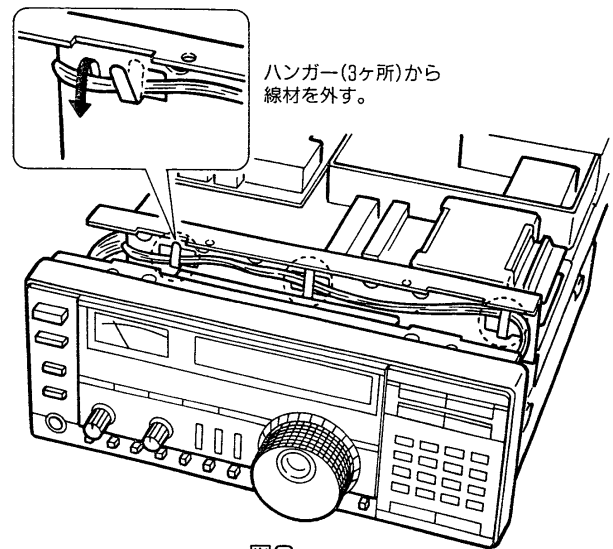


図2

■接続コードの外しかた



ハンガー(3ヶ所)から線材を外す。

図3

■REGユニットの開きかた

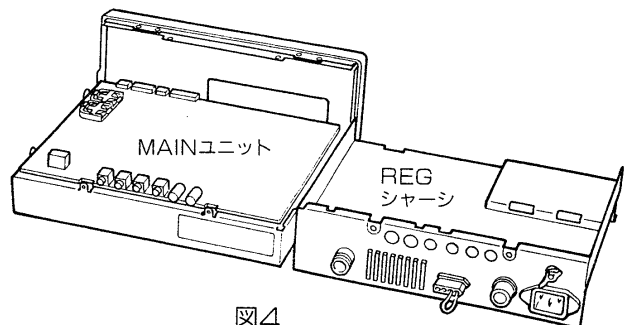


図4

10 オプションユニットの取り付け

10-2 UT-36(音声合成)ユニットの取り付け

UT-36は、運用周波数を日本語または英語で発声させる音声合成ユニットです。

- ①「上下カバーの取り外し」にしたがって、上カバーを外します。
- ②UT-36はユニット裏側の薄紙をはがし、図5を参照してREGシャーシに貼り付けます。
- ③オプションユニット接続ケーブルからのコネクタP1をJ1、P5をJ2に差し込みます。
- ④UT-36ユニットのS1で出力音声(日本語または英語)、S2で発声スピード(SLOWまたはFAST)、R6で音量を設定し、上カバーを元どおり取り付けます。
- ⑤前面パネルの[SPCH]スイッチを押すごとに、運用周波数を発声します。

■UT-36の取り付けと接続

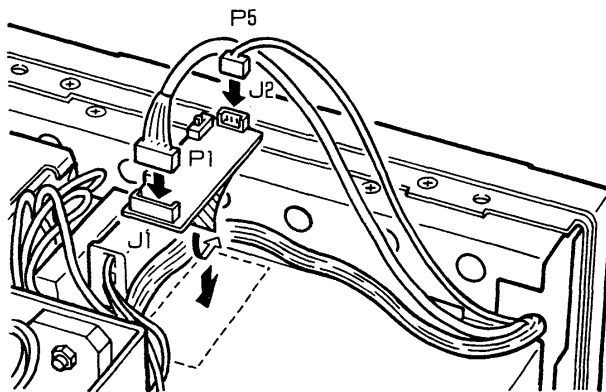


図5

■UT-36のプリセット

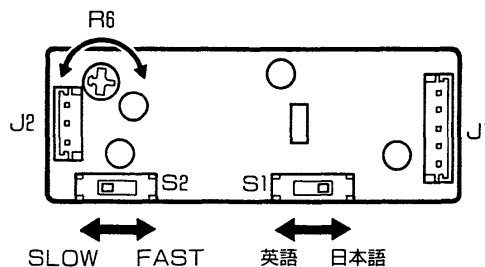


図6

10-3 MB-23(キャリング・ハンドル)の取り付け

MB23は、本機の持運びを便利にするキャリング・ハンドルと側面用ゴム足キットです。

- MB-23は、本機に付属されているタッピンネジを使用して、キット・ハンドルと側面用ゴム足を取り付けてください。

※MB-23に付属されているネジでは、本機に取り付けることができませんからご注意ください。

■MB-23の取り付け

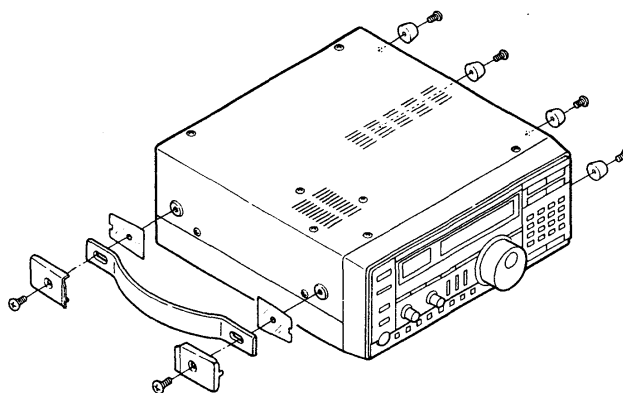


図7

IC-R7100はすべて厳重な品質管理と厳しい検査により出荷されておりますが、万一故障が生じたときは弊社サービス係までその状況をできるだけ具体的にご連絡ください。

なお、故障と思われるときでも、もう一度下表に従って点検、確認してください。

状 態	原 因	処 置
●電源が入らない	○TIMERスイッチがONになっている ○ヒューズの断線 ○電源コードの接触不良	○TIMERスイッチをOFFにする ○原因を取り除き、ヒューズを交換する ○電源コードの接触を確認する
●スピーカーから音がでない	○AF GAINツマミが反時計方向になっている ○SQUELCHツマミが時計方向になっている ○PHONESジャックにヘッドホンが接続されている ○外部スピーカーの接続ケーブルが切れている	○AF GAINツマミを時計方向に回し、聞きやすい音量にする ○SQUELCHツマミを反時計方向に回す ○ヘッドホンを外す ○接続ケーブルを点検し正常にする
●感度が悪く、強力な局しか聞こえない	○ATTスイッチがONになっている ○SQUELCHツマミが時計方向になっている ○アンテナの不良か同軸ケーブルのショートか断線 ○受信している周波数とアンテナの受信できる周波数範囲が適合していない	○ATTスイッチをOFFにする ○SQUELCHツマミを反時計方向に回す ○アンテナと同軸ケーブルを点検し正常にする ○受信している周波数に適合したアンテナを接続する
●SSBの受信音が、正常な音にならない	○サイドバンド(USBまたはLSB)の指定が違っている	○SSBスイッチを押して、USBまたはLSBに切り換えてみる
●FM放送、テレビ放送の受信音が、正常な音にならない	○電波型式の指定が違っている	○WFMスイッチを押して、WFMにする
●メインダイヤルを回しても周波数がセットできない	○LOCKスイッチがONになっている ○メモリーチャンネルがブランク状態になっている	○LOCKスイッチをOFFにする ○一旦、テンキーで周波数をセットする
●テンキーによるダイレクトエンターができない	○ダイレクトエンターのしかたがまちがっている	○正しいダイレクトエンターを行う
●スキャン操作をしてもスキャンしない	○SQUELCHツマミをセットしていない	○SQUELCHツマミをセットする
●プログラムスキャンが動作しない	○プログラムスキャン用エッジチャンネルに同じ周波数書き込まれている	○プログラムスキャン用エッジチャンネルに違う周波数書き込む
●メモリースキャンが動作しない	○メモリーチャンネルに周波数書き込まれていない ○メモリーチャンネルがブランク状態になっている	○メモリーチャンネルに周波数書き込む ○リセットしたあとは、運用に必要な周波数や電波型式などをメモリーチャンネルに書き込んでおく
●モードスキャンが動作しない	○目的の電波型式が他のメモリーチャンネルにない	○スキャンする電波型式を変更する
●セレクトメモリースキャンが動作しない	○目的のセレクトNoが指定されていない	○スキャンするセレクトNoを変更する
●メモリーにセレクトNoが書き込めない	○メモリーチャンネルがブランク状態になっている	○メモリーチャンネルに周波数書き込むか、メモリーしているチャンネルを選択する
●メモリーの内容が変わっていない	○呼び出しているメモリーの内容を変えて運用し、その内容を書き込んでいない	○メモリーに残しておきたい内容があるときは、必ずMWスイッチを押して書き込んでおく
●タイマー予約が実行されない	○TIMERスイッチがONになっていない ○予約内容が有効になっていない	○TIMERスイッチをONにする ○時計モードでタイマーセット表示を呼び出し、SETスイッチでタイマー有効表示を指定する ○リセットしたあとやバックアップ用リチウム電池を交換したときは、タイマー予約をしなおす
●SPCHスイッチを押しても音声が出ない	○音声合成ユニット(UT-36)を内蔵していない	○オプションの音声合成ユニット(UT-36)を装着する

※内部に発熱体(トランジスターやダイオード)があるため、長時間運用した場合に温度が上昇しますが、異常ではありません。

12 定 格

- 受信周波数範囲：25.00~252.90MHz 255.10~261.90MHz
266.10~270.90MHz 275.10~379.90MHz
382.10~411.90MHz 415.10~809.90MHz
834.10~859.90MHz 889.10~914.90MHz
960.10~1000MHz 1240~1300MHz
(1GHz以上の動作周波数 1000MHz~1999.9999MHz)
 - 電波型式：SSB(USB/LSB)、AM/AMW、WFM、FM/FMN
 - 電源電圧：AC 100V ±10%(50/60Hz)
DC 13.8V ±15%
 - 接地方式：マイナス接地
 - 消費電流：受信時 1.5A(DC 13.8V時)
受信最大出力時 1.9A(DC 13.8V時)
 - アンテナインピーダンス：50Ω(不平衡)
 - 使用温度範囲：-10°C~+60°C
 - 周波数安定度：25~250MHz ±1.5kHz以内(0°C~+50°C)
(FMモード) 250~1000MHz ±5ppm以内(0°C~+50°C)
1240~1300MHz ±10ppm以内(0°C~+50°C)
 - 外形寸法：241(W)×94(H)×239(D)mm(突起物含まず)
 - 重量：6.0kg
 - 受信方式：スーパーヘテロダイン方式
 - 中間周波数：

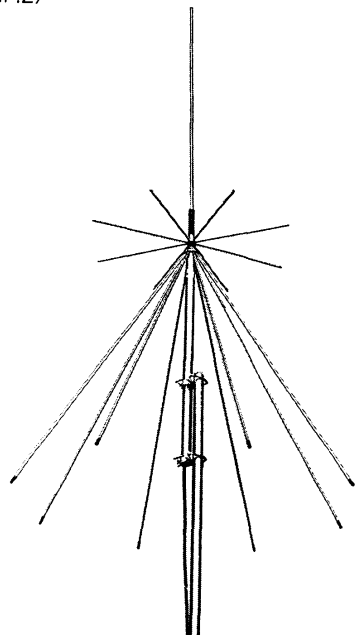
	25~512MHz	512~1000MHz
第1	778.70MHz	266.70MHz
第2	10.70MHz	10.70MHz
第3	455kHz*	455kHz*
- ※WFMモードを除く
(1240~1300MHzはクリスタルコンバーター方式)
- 受信感度：25~1000MHz, 1240~1300MHz
FM 12dB SINAD -9dBμ(0.35μV)以下
WFM 12dB SINAD 0dBμ(1μV)以下
SSB 10dB S/N -14dBμ(0.2μV)以下
AM 10dB S/N 4dBμ(1.6μV)以下
 - 選択度：FM、AMW 15kHz以上/-6dB
FMN、AM 6kHz以上/-6dB
WFM 150kHz以上/-6dB
SSB 2.4kHz以上/-6dB
 - スケルチ感度：FM、AM -9dBμ(0.35μV)以下
WFM(25~100MHz)、SSB 13dBμ(4.5μV)以下
WFM(1240~1300MHz) 15dBμ(5.6μV)以下
 - スプリアス妨害比：50dB以上
 - 低周波インピーダンス：8Ω
 - 低周波出力：2W以上(8Ω負荷 10%歪時)
ただし、FMNモードは1.0W以上

※測定法はJAIAで定めた測定法による。

※定格は改良のため予告なく変更することがあります。

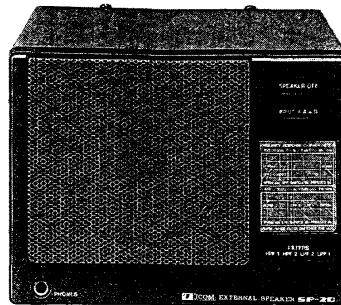
■AH-7000

超広帯域ディスコーンアンテナ
(25~1300MHz)



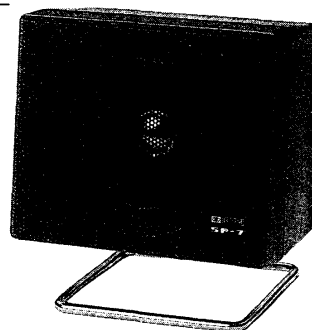
■SP-20

オーディオフィルター付外部スピーカー



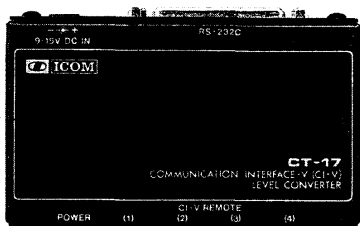
■SP-7

外部スピーカー



■CT-17

CI-Vレベルコンバーター



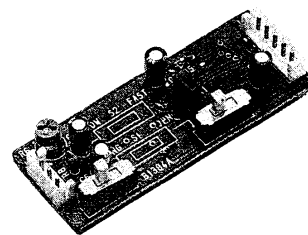
■GC-5

ワールドクロック



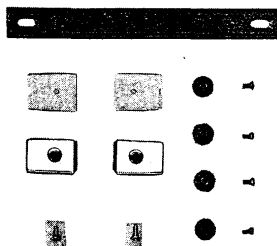
■UT-36

音声合成ユニット



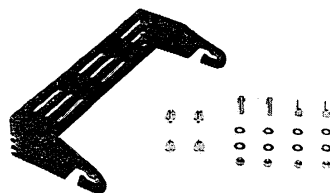
■MB-23

キャリングハンドル



■IC-MB5

モービルブラケット



■TV-R7100J

TV/FMアダプター



高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547 大阪市平野区加美東6丁目9-16	
北海道営業所	060 札幌市中央区大通東9丁目14	TEL (011) 251-3888
仙台営業所	982 仙台市若林区若林1丁目13-48	TEL (022) 285-7785
東京営業所	130 東京都墨田区亀沢1丁目4-18	TEL (03) 3621-8649
名古屋営業所	466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3	TEL (052) 842-2288
金沢出張所	921 金沢市高島1丁目335	TEL (0762) 91-8881
大阪営業所	547 大阪市平野区加美南1丁目8-35	TEL (06) 793-0331
広島営業所	733 広島市西区観音本町2丁目10-25	TEL (082) 295-0331
四国営業所	760 高松市塩上町2丁目1-5	TEL (0878) 35-3723
九州営業所	815 福岡市南区塩原4丁目5-48	TEL (092) 541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします